

社会福祉法人廿日市市社会福祉協議会

平成30年度事業報告

はじめに

近年の地域福祉を取り巻く政策の動きは、現場を置き去りにするほどのスピード感で変化・変革していますが、これは、地域における生活課題や福祉課題が拡大し多岐に渡っていることの表れであるとともに、地域福祉の施策化の流れと捉えることもできます。

廿日市市においても、少子高齢化、過疎化による担い手不足、地域のつながりの希薄化など、地域をめぐる環境は楽観できる状況ではありません。また、地域福祉を推進する多様な主体が手を取り合いながら、地域福祉を計画的に推進していくことが求められます。

廿日市市社協では、生活・福祉課題を抱える人たちが地域で孤立しないために、様々な専門機関との分野や立場を超えた横断的な連携、協働をすすめるとともに、福祉の「受け手」「担い手」ではなく、地域のあらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら、自分らしく活躍できる地域づくりをすすめるため、『地域から頼られ、地域の願いに応えられる社協』を目指すことを基本方針として、必要な事業を展開しました。

平成30年度の実践の振り返り

次の4点の基本方針に基づいて、誰もが安心して自分らしく暮らせる「福祉のまちづくり」の推進に取り組みました。

●基本方針① みんなで支え合って暮らせる地域づくり

気軽に声をかけ合え、お互いを理解し合え、みんなが「お互いさま」と言い合える地域づくりを目指し、身近な集いの場づくりや誰もが参加できるイベント等を企画しました。また、当事者との交流を推進しました。

みんなで支え合って暮らせる地域づくりに向けて、共に地域で暮らしていけるために、今後は、地域を基盤とした福祉教育をさらに推進することが必要です。

●基本方針② 願いをカタチにしていく事業づくり

各種ツールを再整備するとともに、市と連携して、事業の見直し・改善・評価を行いました。また、各事業を通して、多様化した生活課題、地域課題を把握する仕組みづくりをすすめました。

今後も、地域の実情の「見える化」をすすめ、住民の願いに基づいた取り組み、地域の実態に即した事業を展開していく必要があります。

●基本方針③ 福祉の“わ”を広げる人づくり

昨年度の大規模災害への対応においては、多くのボランティアや様々な関係者とともに被災者支援活動を展開し、新たな出会いから福祉の“わ”が広がりました。

今後は、ボランティア講座や各種体験事業の開催等を体系的に企画実施することで、「すべての人が自分の強みを活かせる福祉活動の場」を創出していく必要があります。

●基本方針④ 魅力ある社協組織づくり

社会福祉法人制度の改革に呼応し、「経営組織のガバナンスの強化」「事業運営の透明性の向上」「財務規律の強化」に取り組みました。また、地域住民に親しまれ、関係機関、組織等が気軽に参加・参画できる組織づくりに取り組みました。

今後も、他機関・組織等との連携を強化するとともに、福祉課題解決に向けて協働して取り組む体制づくりを進めてきます。

事業の詳細

事業の詳細は、次ページ以降のとおりです。

(廿日市市地域福祉計画に示されている5つの基本目標にあわせて編集しています。)

基本目標

- 1 社会参加や役割発揮のための人づくり、参加の入口づくりを進めます
- 2 組織（主体）の意識や活動を進化させます
- 3 地域の問題解決に必要な情報を共有します
- 4 社会的孤立を見逃さないための仕組みづくりを進めます
- 5 多様な主体の強みを生かした新しい支えあいを育てます

◆廿日市市全域事業	P. 3 ~ P. 25
◆廿日市地域事業	P. 26 ~ P. 31
◆佐伯地域事業	P. 32 ~ P. 36
◆吉和地域事業	P. 37 ~ P. 41
◆大野地域事業	P. 42 ~ P. 47
◆宮島地域事業	P. 48 ~ P. 49
●円滑な事業推進体制のために	P. 50 ~ P. 52

基本目標（１） 社会参加や役割発揮のための人づくり

参加の入口づくりを進めます

地域活動をしていくきっかけとなる講座の開催、そして、誰もが気軽に参加でき、役割を発揮できる場を地域の中に作っていくための事業を実施した。

１ ボランティア活動支援事業（市補助 54千円）

福祉活動の担い手であるボランティアの活動の円滑な推進を支援すると共に、市内の小中学校が取り組む福祉教育活動に対し支援した。

- (1) ボランティア養成及び啓発活動
- (2) 福祉教育の支援（相談・ボランティア調整・体験指導・機材貸出し等）
- (3) ささえ愛ネットはつかいちの活動支援

２ ファミリー・サポート・センター事業（市委託・自主 4,481千円）

多様化する福祉ニーズ、とりわけ少子高齢社会に対応するため、依頼会員と提供会員の橋渡しを行なった。また、活動を通して依頼会員と提供会員の間に“ほっと”なつながりや気軽に“SOS”が出せる関係づくりができることを目指した。

（ ）内は前年度実績

登録会員数	1,261人【依頼会員877人、提供会員337人、両方会員47人】 (1,275人【依頼会員792人、提供会員425人、両方会員58人】)
利用(活動)実績	2,207件【育児480件、介護1,727件】 (2,143件【育児495件、介護1,648件】)
広報活動	「あいとぴあ（市社協広報紙）」記事掲載（2回） 提供会員募集記事、研修会実施記事を掲載 「ファミサポだより」発行（2回） 各地区民生委員児童委員協議会の定例会・市社協ホームページで随時提供会員を募集
研修会・交流会の開催	研修交流会開催（7回・参加者76人） 研修会内容 6/20 子育てサポーター養成講座（11人） 6/22 幼児安全法（14人） 6/22 おやつづくり（8人） 7/24 認知症サポーター養成講座（14人） 11/16 子育てサポーター養成講座（2人） 12/7 整理収納講座（15人） 12/7 健康生活講座（12人）

[平成30年度重点的に取り組む事項]

- ・提供会員の人材発掘と潜在的なニーズをくみ上げるため、積極的に地域に出向く。
→串戸で行われている百歳体操や、阿品のサロンで行われた認知症サポーター養成講座に出向いて呼びかけを行い、実際に登録につながった。

- ・既に行われている活動に対して、実際に活動現場に出向くなどのフォローを行う。
→実際の現場には出向けなかったが、報告書をもってこられた際に活動中の話を丁寧に聞き取った。

基本目標（２） 組織（主体）の意識や活動を進化させます

既存の地域福祉を推進する基礎組織と連携しながら、地域における生活課題や福祉課題を解決するための「地域の役割」について協議する場づくりを重層的にすすめた。

１ 生活支援体制整備事業【重点】（市委託 27,878千円）

高齢者の日常生活を支えていくための生活支援の仕組みづくりと、高齢者の社会参加促進に向けて、地域の多様な担い手による受け皿確保のための基盤整備を地域住民と共にすすめた。

また、地域内で福祉課題や資源の情報共有、地域資源の更新の仕組みづくりを協議する協議体の整備をすすめた。

（１） 全域

- ・ 廿日市市地域ケア推進協議会（8/22・2/22）
- ・ 市高齢介護課との業務連携会議（１２回）
- ・ リハビリ士会との業務連携会議（４回）
- ・ 市民センター職員研修（5/15）

（２） 廿日市地域

①第２層圏域

- ・ 山口県萩市訪問研修(2/20 24人参加)
- ・ 廿日市地域ささえあいのまちづくり情報交換会(3/5 23人参加)

②第３層圏域

ア 佐方地区

- ・ 佐方アイラブ自治会（4/24・5/13）
- ・ 縁側サロン900回記念（10/2）
- ・ 佐方市民センターへのヒヤリング（2/1）

イ 廿日市地区

- ・ 福祉の会定例会議出席（24回）
- ・ サロン代表者会議（10/1・1/7）

ウ 平良地区

- ・ 平良地区福祉を進める会（5/28・11/26・3/8）
- ・ サンサンひろば一周年記念（4/16）
- ・ 平良地区講演会打合せ（11/5）
- ・ 平良地区講演会（12/7）
- ・ 平良円卓会議（2/28）

エ 原地区

- ・ 原地区コミュニティ福祉部との協議（10回）
- ・ 原市民センター職員との協議（6/8）
- ・ 原地区での生活支援体制整備事業についての協議（7/17）
- ・ コミュニティ会長との協議（7/26）
- ・ 原地区コミュニティ福祉部長との話し合い（8/22）
- ・ 見守りネットワーク勉強会（9/26）

オ 串戸地区

- ・ 串戸地区自治協役員会（4/28・11/15）

カ 宮内地区

- ・ふれあいクラブ峰高準備打合せ（4/20）
- ・ふれあいクラブ峰高立上げ支援（5/11）

キ 地御前地区

- ・地御前長寿会ふれあいサロン（3/7）

ク 阿品台地区

- ・阿品台コミュニティ総会（4/27）
- ・千寿会との協議（6/21）

ケ 宮園地区

- ・ほほえみ宮園定例会（9/8・11/24・2/9）
- ・宮園地区福祉委員会（4/21）
- ・宮園地区社協総会（5/13）
- ・宮園地区社協研修会（6/16）
- ・宮園地区社協会長との協議（6/4）

コ 四季が丘地区

- ・四季が丘地区社協総会（5/20）

(3) 佐伯地域

①第2層圏域

- ・福祉委員会議全体会議（4/25・9/26）
- ・福祉施設連絡協議会（6/1）
- ・地域ケア会議（12/26・1/30・2/27・3/27）

②第3層圏域

- ・玖島福祉委員会議（4/24・9/25）
- ・友和福祉委員会議（4/24・9/25）
- ・浅原福祉委員会議（4/25・9/26）
- ・津田・四和福祉委員会議（4/25・9/26）
- ・サロン連絡会議（6/13・2/21）
- ・出前サロン（浅原市野集会所 6/28・11/22）
- ・出前サロン（玖島一丁田集会所 7/11・11/26）
- ・出前サロン（友和下友田集会所 1/17）

(4) 吉和地域

- ・地域連絡会議（毎月1回開催 年間12回）
- ・あつまろう家実行委員会（5/10・12/12）
- ・あつまろう家（7/18・3/28）
- ・生涯暮らし続けられる吉和地域をつくる会（2/25）

(5) 大野地域

①第2層圏域

- ・大野地域福祉推進委員会「第2層協議体設置に向け事業説明」（7/4）
- ・大野地域福祉推進委員会「第2層協議体設置承認」（1/30）
- ・大野地域福祉推進研究協議会（3/2）

『『地域共生社会』の実現を見据えた生活支援体制の構築』をテーマとした講演会
八区ふれあい福祉の会による実践報告「わたしの地域の生活支援体制への関わり方」

②第3層圏域

- ・大野第8区第3層協議体「八区ふれあい福祉の会」事業説明会（5/28）
- ・大野第8区第3層協議体「八区ふれあい福祉の会」による八区福祉研修会（10/23）
- ・大野第2区で第3層協議体設置に向け事業説明及び協議（12/8・2/9・2/16）

(6) 宮島地域

- ・宮島地域コミュニティ推進協議会生活環境部会（7/19）
- ・宮島地域コミュニティ推進協議会事務局との話し合い（3/14）

[平成30年度重点的に取り組む事項]

- ・協議体の立ち上げ支援のための地域への働きかけを継続し、市内28地区（コミュニティ）での協議体づくりを目指す。
→計画的な働きかけが十分でなく、第3層圏域で協議体が立ち上がっているのは、市内28地区中5地区に留まっている。

(廿日市地域)

協議体未設置地区への事業説明を行う。地区の中の福祉の推進の核になっていく人や組織とその地域の社会資源の見える化や活動づくりをしながら、協議の場づくりを行う。第2層協議体（連絡会）を設立する。

- 第3層圏域の協議体未設置地区に対しては、地区単位の定期的な話し合いの場に参加し、協議体づくりに向けて継続的に働きかけを行なった。また、第2層圏域においては、11地区の地域住民が参加する県外の訪問研修を企画実施し、その参加者を中心に「ささえあいのまちづくり情報交換会」を開催した。

(佐伯地域)

津田地区での協議体の設立に向けた協議を行う。

- コミュニティの福祉部会への働きかけを継続的に行なった。

(吉和地域)

「生涯暮らし続けられる吉和地域をつくる会」を第3層協議体として考え、引き続き支援する。

- 平成30年度中につくる会は協議体と承認された。また、会議開催・情報提供等の後方支援を行なった。

(大野地域)

大野第8区の第3層協議体の支援、及び他の区の第3層協議体設立に向けた働きかけと、大野地域福祉推進委員会を中心に第2層協議体の設立に向けた協議を行う。

- 大野地域福祉推進委員会を第2層協議体と位置付けた。

(宮島地域)

住民主体の活動の場を広げ、また、既存の住民相互の見守り活動について把握、見える化を行う。

- 宮島地域コミュニティ推進協議会で協議体の機能を持ってもらうよう、まずは福祉をテーマにした協議をできるように働きかけた。

基本目標（３） 地域の問題解決に必要な情報を共有します

福祉総合相談事業を入り口としたニーズ把握、ニーズに基づく事業の展開について、広報活動を行なった。

１ 福祉総合相談事業（自主・市補助 1,315 千円）

市民の相談ごと、悩みなどの解決支援等のために、次の相談事業を行なった。

（１）心配ごと相談の実施

３２人の相談員を委嘱し、「心配ごと相談所」を開設した。

地域	開催日時	場所	開催回数	相談件数
廿日市	毎週火・金曜日 (13:00～16:00)	廿日市市総合健康福祉センター (あいプラザ)	102 回	51 件
佐伯	毎週水曜日 (13:00～16:00)	佐伯社会福祉センター	51 回	6 件
吉和	原則第 2・4 月曜日 (13:00～16:00)	吉和福祉センター (すこやかプラザ)	19 回	7 件
大野	毎週木曜日 (13:00～16:00)	大野支所	49 回	22 件
宮島	原則第 1・3 月曜日 (13:00～16:00)	宮島福祉センター	22 回	2 件

（２）福祉総合相談の実施

開設日時は、土・日・祝祭日を除く毎日 9：00～17：00

（３）専門相談の実施

項目	協力機関・団体	開催回数	相談件数
司法書士法律相談	広島司法書士会広島西支部	合 計 14 回 (廿) 計 10 回 (佐) 計 2 回 (大) 計 2 回	合 計 64 件 (廿) 計 54 件 (佐) 計 3 件 (大) 計 7 件
認知症介護相談	認知症の人と家族の会・廿日市	3 回	1 件
	認知症の人と家族の会・大野	12 回	11 件

（４）心配ごと相談員研修の開催

心配ごと相談員の専門性と資質向上のための研修会を各地域において開催した。また、相談員全体研修会を企画実施した（1/17 23 人参加）。

地域	廿日市	佐伯	吉和	大野	宮島
開催月	6 月・9 月・12 月・3 月	3 月	なし	3 月	なし

（５）全相談件数等の前年度との比較実績

項目	30 年度	29 年度
心配ごと相談件数	84 件	107 件
福祉総合相談件数	130 件	178 件
専門相談件数（司法書士・認知症）	76 件	64 件

[平成30年度重点的に取り組む事項]

- ・小冊子「くらしの相談」の情報を随時更新し、ホームページ・広報等を活用し、市民に周知する。
→情報を整理しホームページに公開した。
- ・相談員全体研修を開催し、相談員の相談スキルの向上を図る。
→相談員全体研修を企画実施し、相談対応の基本等を確認した。

2 広報啓発事業（自主・共募3,107千円）

広報紙の発行やインターネットを利用した情報提供を通じ、市民や各種機関に広く市社協の取り組みや市内の福祉活動の動向を周知し、住民の福祉への関心を高め、福祉活動への協力者を増やした。

(1) 市社協パンフレットの発行

市社協事業の概要を掲載したパンフレットを各戸に配布し、市社協の事業を広く住民に周知した。

(2) 市社協だより「あいとぴあ」の発行

偶数月の1日に市社協だより「あいとぴあ」を新聞折込みなどで各戸に配布し、市社協の取り組みや行事案内、地域の福祉情報を広く住民に周知した。

(3) ホームページの運営

市社協の取り組みや行事案内、ボランティアの募集など地域の福祉情報をホームページに掲載し、タイムリーな情報を住民に周知した。

[平成30年度重点的に取り組む事項]

- ・市社協広報紙「あいとぴあ」の記事内容を単に、活動報告、募集内容、研修案内等にとどまらず、事業方針や展開について重点を置き発信していく。
→関心を高める見出しやレイアウトを工夫した。
→社協コラムを作成し、市社協の歴史や活動を伝えた。
- ・ホームページの活用として、今後も随時「お知らせ」を更新し、分かりやすく実用的な「事業・サービス紹介」を増やした情報を発信する。
→地域のサロンを始め、地域活動を中心に紹介した。

3 情報支援事業（市委託 2,363千円）

聴覚や視覚に障がいのある人たちへの各種支援を実施した。

(1) 奉仕員の派遣

手話奉仕員、要約筆記奉仕員を派遣し意思伝達の手段を確保した。

聴覚障がい者への情報保障のために、講演会、会議等へ手話奉仕員及び要約筆記奉仕員の派遣調整を行なった。

【手話派遣実績】

()内は前年度実績

	件数	時間数	利用者数	実働者数	登録通訳者数
個人派遣	334 件 (317 件)	542 時間 (498 時間)	28 人 (26 人)	26 人 (20 人)	33 人 (31 人)
団体派遣	3 件 (6 件)	12 時間 (13 時間)	—	6 人 (12 人)	—

【要約筆記派遣実績】

()内は前年度実績

	件数	時間数	利用者数	実働者数	登録通訳者数
個人派遣	53 件 (31 件)	230 時間 (83 時間)	3 人 (3 人)	7 人 (5 人)	13 人 (12 人)
団体派遣	27 件 (11 件)	71 時間 (26 時間)	—	108 人 (44 人)	—

(2) 奉仕員の養成

ア 点訳奉仕員養成講座

点訳奉仕員養成講座を開催した。

講座回数 全 1 2 回 2 時間 (延べ 2 4 時間) 参加者: 8 人 (修了 8 人 登録 6 人)

イ 音訳奉仕員スキルアップ講座

活動中の音訳奉仕員のレベルアップのために、音訳奉仕員スキルアップ講座を開催した。

講座回数 全 4 回 2 時間

開催日	内 容	参加者
2/21	正しい情報が伝わる方法の再確認について 講師: NHK広島放送局アナウンサー 周山 制洋さん	48 人

ウ 手話奉仕員フォローアップ講座

活動中の手話奉仕員のフォローアップのために、手話奉仕員フォローアップ講座を開催した。

講座回数 全 1 回 2 時間

開催日	内 容	参加者
2/15	ろう者の手話をどう理解するか 講師: 広島県手話通訳士協会 唐澤 美加さん	15 人

(3) 情報の提供

視覚障がい者への音訳テープとして、「広報はつかいち」(毎月 1 日発行)、「さくらびあ物語」(奇数月 1 日発行)、「市議会だよりさくら」(5・8・11・2 月の原則 10 日発行)、「あいとぴあ」(偶数月 1 日発行)、点訳本として「広報はつかいち」(毎月 1 日発行)、「さくらびあ物語」(奇数月 1 日発行)、「市議会だよりさくら」(5・8・11・2 月の原則 10 日発行)「あいとぴあ」(偶数月 1 日発行)などを提供した。

[平成 30 年度重点的に取り組む事項]

・点訳奉仕員養成講座を開催する。

→参加した 8 名が修了し、その内 6 名が点訳奉仕員の登録をした。

基本目標（４） 社会的孤立を見逃さないための 仕組みづくりを進めます

高齢や、障がい、その他様々な理由で社会的孤立しがちな対象者を見逃さないために、行政等からの委託事業、自主事業などを実施する中で、新たなニーズ発掘を行なった。

１ リフトカー貸出事業（市委託・自主 1,833千円）

廿日市・佐伯・吉和・大野事務所に５台のリフトカーを配置し、移動の手段が一般車両では困難な市民や、福祉団体に貸し出した。リハビリやスポーツ、美容院、家族との小旅行、当事者団体のつどい、講演会・会議などへの参加手段として利用があった。

【貸出件数】 () 内は前年度実績

廿日市全域 ５台	廿日市 ２台	佐伯 １台	吉和 １台	大野 １台
590件(571件)	346件(363件)	69件(67件)	142件(115件)	33件(26件)

[平成30年度重点的に取り組む事項]

- ・市の運行要綱に沿った事業の在り方と利用者にとって使いやすい、公平な事業となっているかについて検討する。
→事務局内で整理し、市担当課との協議の場を持った。
- ・利用促進に向けた周知を行う。
→ホームページ等で市民に対し周知を行なった。

２ 認知症高齢者等支援事業（市委託・自主・共募 1,354千円）

認知症等になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができる地域づくりを目指し、次のとおり事業を展開した。

(1) 認知症にやさしい地域づくりネットワークの形成

はいかいSOSネットワークとの連携により、行方不明者の早期発見・保護に努めた。

対応件数	無事発見・保護件数	事前登録者数
14件	13件	125人

ア はいかいSOSネットワーク運営連絡会議の開催（8/24）

イ はいかいSOSネットワーク講演会の開催

開催日	内 容	参加者
3/24	誰もが安心して暮らせる廿日市を考えるつどい （実践発表＋パネルディスカッション） 「認知症の人の災害支援を考える」 ～自分たちにできることとは～ 講師：小規模多機能ホーム「ぶどうの家真備」 代表 津田 由起子 さん 坂町地域支え合いセンター	68人

	センター長 木下 健一 さん 他	
--	------------------	--

ウ 啓発活動の実施

関係諸機関と連携しながら啓発活動に努めた。

開催日	会場	内 容
10/11 ～10/14	フジグラン ナタリー	健康フェスタ (認知症・介護相談、福祉のお仕事相談他)

エ 広島市佐伯区との連携会議

広域での検索をスムーズにするため、佐伯区との連携会議を行なった。(12/12)

(2) 徘徊高齢者家族支援サービスの実施

位置検索端末機の貸出し実績 11台 (保有台数 13台)

(3) 認知症高齢者支援会議の開催

年6回、関係者が集まり、認知症関連事業の取組みについて協議した。

(4) キャラバン・メイト及び認知症サポーターの養成

ア 認知症サポーター養成講座の開催 (地域・職域・学校)

分類	受講団体	回数	受講者
地域	老人クラブ、サロン、町内会 他	10回	286人
職域	J A広島総合病院、フジグラン	2回	54人
学校	日本赤十字広島看護大学、津田小学校、友和小学校、大野西小学校、宮園小学校、廿日市小学校、廿日市中学校	7回	403人
計		19回	743人

イ 地域別の取組み

(ア) 廿日市地域

・キャラバン・メイト廿日市地域部会 (年1回: 5/9)

(イ) 佐伯・吉和地域

・キャラバン・メイト佐伯・吉和地域部会 (年1回: 11/12)

(ウ) 大野・宮島地域

・キャラバン・メイト大野宮島地域部会 (年6回)

[平成30年度重点的に取り組む事項]

- ・徘徊高齢者家族支援サービスの貸出機器であるココセコムについて、現貸出機器より性能等が優れた機器があれば移行を検討する。
→利用者を対象にココセコムの活用方法やそれ以外の位置検索端末機の要望等を調査するためのアンケートを実施した。
- ・各市民センターで認知症サポーター養成講座を開催する。(廿日市地域)
→地域を対象とした認知症サポーター養成講座を阿品市民センター、宮園市民センターで開催した。

3 地域の集いの場立ち上げ支援事業 (市委託 526千円)

地域の高齢者が集える場の新規立ち上げに対し助成金を交付し、新たなつどい・サロンづくりの支援を行なった。

・助成実績

計19団体助成

- (廿日市地域) 笑いヨガサロン阿品台北、ふれあいクラブ峰高、あじさいの会、ほっこり家、陽だまりの会、サンサンひろば、健康体操の会、仲よしサロン、サロンひまわり、サロンえがお、金剛寺サロン、夢あじな
- (佐伯地域) 所山おきな草の会、おたっしやる一む、林サロンみのり、なかよしサロン、カラオケサロン、すこやかサロン
- (大野地域) みんなのサロン

4 生活困窮者自立相談支援事業 (市委託 18,900 千円)

生活困窮者が抱える多様で複雑な問題について、生活困窮者からの相談に応じ、必要な情報提供及び助言を行うとともに、様々な支援を一体的かつ計画的に行うことにより、生活困窮者の自立への促進に寄与した。

(1) 活動実績及び件数

項 目	件 数
新規相談受付	260 件
自立支援計画作成	96 件 (再作成含む)
自立支援計画評価	78 件 (うち終結 65 件) 一般就労達成 9 件
支援継続中ケース数 (3 月末)	132 件
住居確保給付金申込受付	7 件
一時生活支援事業申請受付	6 件
生活困窮者支援調整会議の開催	定期 12 回 (毎月)、随時 13 回

(2) 事業説明

開催日	内 容	職員人数
6/19	市民センター主事定例会議	1
6/27	佐伯地域ケア会議	1
7/4	しごと共創センター	1
7/6	大野東地域ケア会議	1
7/9	阿品・阿品台地区民生委員児童委員協議会	1
7/10	廿日市中央地区民生委員児童委員協議会	1
7/19	佐伯商工会	1
8/9	大野商工会	1

(3) 研修会等

開催日	内 容	回数	職員人数
5/26	生活保護受給者等就労自立促進事業 (ハローワーク廿日市主催)	1	1
3/12	生活困窮者自立支援事業担当者会議 (広島県社協)	1	1
11/10-11	生活困窮者自立支援支援事業全国大会 (熊本)	1	2

(4) フードバンク事業の立ち上げ

まだ食べられるにも関わらず、様々な理由で廃棄する食料を、食に困っている生活困窮者及び、地域での高齢者や子どもたちの支援に係る団体・機関が活用するための仕組みづくりを行なった。(平成30年度 カルビー株式会社・チチャス株式会社)

あいプラザまつりで食品の収集、広報「あいとびあ」での広報を通じて住民参加型で事

業を行なった。(寄贈者／11人 提供者／74人 (どちらも年間延べ人数))

(5) 広報啓発

はつかいち市民図書館での貧困に関わる図書の展示を行い、啓発に努めた。

[平成30年度重点的に取り組む事項]

- ・必要なときに相談につながる体制（ネットワーク）づくりに取り組む。
→今年度生活困窮者の課題を解決していくために必要な「就労」「居住」の分野についてネットワークづくりを行なってきた。就労については、環境産業部との連携をとることができた。住宅政策課とのネットワークが未整備なので今後の課題。

5 生活困窮者家計相談支援事業 (市委託 2,642千円) <行動計画5>

生活困窮者の家計の自立に向け、相談者の家計の状況の「見える化」を行い、本人の経済的自立への意欲を引き出し、アセスメント(家計診断)、家計支援計画の作成(支援の提案)、家計表等の活用や出納管理を通じて家計収支の均衡を図り、家計管理能力を高めるために必要な支援の調整を実施した。

(1) 活動実績及び件数

項 目	件 数
新規相談受付	260 件 (自立相談を含む)
自立支援計画作成	33 件 (再作成含む)
自立支援計画評価	2 件

(2) 必要に応じて生活資金貸付のあっせん

生活福祉資金貸付事業、緊急生活安定資金等の貸付を併用しながら生活困窮者の自立に向けた支援を行なった。(実績についてはそれぞれの事業で報告)

(3) 他の支援機関へのつなぎ

法テラス、クレジットカウンセリング協会への同行により、債務整理の支援を行なった。

6 生活困窮世帯の子どもの学習支援事業 (市委託 2,646千円) <行動計画5>

生活困窮者及び生活保護世帯の「貧困の連鎖」を防止する観点から、生活困窮家庭の子どもへの学習支援や仲間と出会い活動できる居場所づくり、学習の重要性について、保護者の理解の促進などの支援を行なった。

(1) 相談件数

項 目	件 数
相談受付 (うち不登校)	20 人 (小学校 7 人 中学校 10 人 高校 3 人) (12 人 (小学校 4 人 中学校 6 人 高校 2 人))
実支援数	7 人 (小学校 4 人 中学校 3 人)

(2) 支援件数

項 目	件数 (のべ)
学習支援	80 件
学習相談 (親へのアプローチ)	106 件
他機関との連携 (SSW・学校等)	180 件
ケース会議	11 件

(3) ネットワークづくり

関係機関への事業の説明および、市内にある学習支援をする団体のマップ作りを行い、教育委員会、地域の自主的な子どもたちへの関わりなどをまとめ、市内での学習支援活動の「見える化」を行なった。

市民センターに出向いて、学習支援での場所の提供等の協力依頼を行なった。

日 時	内 容	職員人数
5/9	校長会での事業説明	3
5/16	S S W説明会	3
5/18	子育て支援係との協議	3

7 福祉サービス利用援助事業 (県社協委託, 事業収入 9,376 千円)

日常生活において判断能力が不十分で不安のある人が安心して地域生活ができるよう権利擁護を目的に福祉サービス利用援助、日常的金銭管理のお手伝い、重要書類等預かりサービスを実施した。また、制度について、医療機関、地域包括支援センター、福祉施設及び民生委員児童委員等への周知に努めた。

(1) 実施状況

ア 契約状況

新規相談：84件（内、契約25件）

イ 地域別実利用人数

廿日市	佐伯	吉和	大野	宮島	計
72人	15人	1人	24人	4人	116人

ウ 事業開始からの契約件数累計

	認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	計
契約件数	155件	37件	80件	28件	300件

エ 訪問、窓口、電話等による相談・調整・支援件数

認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	計
2,825件	1,923件	2,921件	902件	8,571件

(2) 生活支援員の確保・研修の実施

ア 活動実施体制の充実

生活支援員が担当しているケースについては随時、情報共有、支援方針を検討する等、協議や連絡調整を重ねることで相互の信頼関係の構築と資質の向上に努めた。

イ 生活支援員人数（地域別）

廿日市	佐伯	吉和	大野	宮島	計
15人	4人	1人	7人	0人	27人

ウ 生活支援員の資質向上のための研修会開催（年1回）

開催日	内 容	参加者
第1回 4/27	本事業の事業報告 「認知症への理解と対応方法について」 講師：介護老人保健施設 べにまんさくの里 相談室室長 遠藤 秀雄 さん	22人

(3) 関係機関との連携強化

ア 福祉サービス利用援助事業運営連絡会議の開催（3/19）

広島弁護士会、リーガルサポートひろしま、廿日市金融機関懇話会、県西部厚生環境事務所、市福祉総務課、地域包括支援センター、障がい福祉相談センターきらりあ、民

生委員児童委員協議会、県社協等による運営連絡会議を開催した。

イ ケース会議等の開催

複合的課題を抱えている世帯や社会的孤立状態にある人など、対応に苦慮するケースについて、本人が置かれている状況等を関係機関（地域包括支援センター、市行政関連部署、福祉施設、医療機関、民生委員児童委員等）で情報共有し、支援方針、役割分担等について協議するとともに、ネットワークの構築に努めた。また、様々なケースを通して、関係機関と連携して支援を行い協力体制の強化に努めた。

(4) 組織内の連携強化及び担当職員の資質の向上

ア 福祉サービス利用援助事業の専門員及び担当職員を複数配置し、支援体制の強化、組織内の担当職員による会議の開催や情報共有等、連携して事業実施した。

イ 会議等開催、参加状況

主催	運営連絡会議	1 回	ケース会議等	55 回
	生活支援員研修会	1 回	社協内担当学会議	12 回
参加	専門員連絡会議（1 回）	1 人	専門員研修会	1 人
	成年後見制度推進団体連絡会議	1 人	中国ブロック専門員研修	2 人
	専門員実践力強化研修Ⅰ	1 人	専門員実践力強化研修Ⅱ	1 人

相談援助職としての技量の向上を目的とした専門員実践力強化研修、中国ブロック専門員研修を受講し、事例検討をもとに、利用者への関わり方や社会資源との連携について学び、専門員としての視点や知識・技術を学んだ。

(5) 事業の周知

NPO法人や外部団体主催の研修会での出前講座等を通じ事業の周知に努めた。

[平成30年度重点的に取り組む事項]

- ・利用者から安心してもらえる支援を継続的に行なっていくため、利用者からの預かり物や個人情報等について、職員研修の実施や所内手続きの改善等を行い管理体制の強化に取り組む。
- 記録・管理状況の事務手続き等について、職員会議で情報共有するとともに預かり物の管理体制や記録の整理等の確認作業を全事務所で行なった。

8 法人後見事業（自主 1,026 千円）

認知症、知的障がい及び精神障がい等の理由で判断能力が不十分な人が地域で安心して暮らし続けられるよう、本会が法人として成年後見人等を受任し、必要な支援、調整等を行い、誰もが安心して日常生活を送ることはできる地域づくりに取り組んだ。

(1) 関係機関との連携強化

成年後見人等の権利擁護のため、弁護士、司法書士、社会福祉士等の職能団体及び行政等とのさらなるネットワークの強化に努めるため、法人後見事業運営委員会を開催した。

開催日	内 容	出席者
3/19	講演：「成年後見制度利用促進基本計画の工程表と現状」 講師：広島県弁護士会 弁護士 水中 誠三 さん 全国及び県内、市内の福祉サービス利用援助事業及び法人後見事業の実施状況報告 廿日市市における成年後見制度利用促進について意見交換	23 人

(2) 組織内の連携強化及び担当職員の資質の向上

県社協主催の研修及び成年後見制度推進団体連絡会議等に参加し、動向の把握、担当職員の資質向上に努めた。

(3) ニーズの掘り起こし

福祉サービス利用援助事業（かけはし）契約者の中で、成年後見制度の活用が必要な人に対して、円滑な制度移行をするため、法人後見事業後見支援会議を開催した。（2回）

(4) 実施状況

ア 年度末における受任ケースの内訳 () 内は事業開始からの累計

認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	計
2 人 (4 人)	2 人 (3 人)	3 人 (4 人)	7 人 (11 人)

※ 全て後見類型

イ 訪問、窓口、電話等による相談・調整・支援件数 () 内は前年度実績

認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	計
30 回 (0 回)	74 回 (163 回)	32 回 (0 回)	136 回 (163 回)

ウ 事業開始からの受任等件数 () 内は事業開始からの累計

項目	件数	項目	件数
候補依頼受付	3 件 (14 件)	候補承諾	4 件 (14 件)
申立	3 件 (11 件)	新規受任	6 件 (11 件)
報酬付与申し立て	3 件 (11 件)	終了	1 件 (4 件)

エ 意識啓発・広報

NPO法人や外部団体主催の研修会等での事業説明を通して、事業実施について周知すると共に、権利擁護について意識啓発を行なった。

開催日	内 容	出席者
9/25	【成年後見セミナー・相談会】 1 成年後見制度のイマとコレカラ 講師：弁護士 日野 真裕美 さん 2 無料相談会 相談員：権利擁護センターぱあとなあ ひろしま	42 人
10/16	【廿日市中心の絆ネットワーク「市民後見」研修会】 社会福祉協議会の権利擁護の取組 説明者：市社協かけはし担当職員	15 人

オ 後見支援員の育成

新規受任ケースに対し、後見支援員の新規委嘱（1人）を行なった。

登録人数：3人

活動状況：対象者2人に対し、延べ11回の支援にあたった。

〔平成30年度重点的に取り組む事項〕

- ・安定して事業を運営できるよう、事務局職員及び後見支援員の資質向上に努める。
→県社協主催の実務者研修、担当者連絡会議への出席、法人後見事業運営会議で成年後見制度利用促進基本計画について学んだ他、成年後見セミナーを開催し、資質の向上に努めた。
- ・安全に後見事務を遂行できるよう、財産管理及び各種手続き等における業務の標準化、マニュアル作成に取り組む。
→金庫保管物の出納状況や支払い内容を適正に管理するため、様式と手順の見直しを行なった。
- ・成年後見制度及び福祉サービス利用援助事業の普及や、権利擁護意識の啓発のために地域で開催されるサロン等で情報提供に取り組む。
→NPO法人や福祉施設の勉強会等で、事業及び成年後見制度の説明を行い、制度の周知を図るとともに権利擁護について考える機会となった。

9 生活福祉資金貸付事業（県社協委託 1,787千円）

低所得者・障がい者・高齢者等に対して、資金の貸付けと民生委員による必要な援助指導を行うことにより、経済的自立及び生活意欲の向上、促進を図り、生活の自立と安定に向けた支援を県社協と共に行なった。

また、日常生活全般に困難を抱えた失業者等に対して、生活の立て直しのためはつかいち生活支援センターによる継続的な相談支援と償還に向けた支援プランを作成し自立のための支援を行なった。

- (1) 償還につながるよう借受人、連帯借受人、連帯保証人に対し、民生委員と連携し、状況の把握に努めた。
- (2) 県社協からの送付文書により残額の通知、滞納者に対する督促を行なった。

【貸付実績】 () 内は前年度実績

申請等実績	相談件数	申請件数
生活福祉資金	156 件 (387 件)	22 件 (12 件)

10 緊急生活安定資金貸付事業（自主 593千円）

緊急に生計の維持が困難になった世帯に対し生活費を貸し付けることにより、経済的自立及び生活の安定を目指した支援を行なった。また必要に応じて、地域包括支援センター等から意見を聴取し、自立に必要な相談支援を行なった。

【貸付実績】 () 内は前年度実績

件数	金額
26 件 (23 件)	1,083,000 円 (1,065,000 円)

〔廿日市・佐伯・吉和地域〕

11 障がい児者指定居宅介護等事業（自主・廿日市・佐伯・吉和 26,619千円）

障がい児者の自己決定を尊重し、地域で安心して暮らせるよう支援を行なった。

(1) 訪問介護員の派遣

在宅障がい児者世帯に対する訪問介護員の派遣を行なった。

ア サービス利用時間数 () 内は前年度実績

身体介護	家事援助	移動〔視覚〕	移動〔知的〕	移動〔全身性〕
3,185.5 時間	126.5 時間	0.0 時間	6140.0 時間	1,563.5 時間
(3,655.0 時間)		(8.0 時間)	(6547.5 時間)	(1,528.0 時間)

イ 契約者数 () 内は前年度実績

区分	児童	知的障がい者	身体障がい者
契約者数	10 人(10 人)	91 人(87 人)	23 人(21 人)

ウ ヘルパー数 () 内は前年度実績

サービス提供責任者	1 人 (1 人)
登録ホームヘルパー	75 人 (81 人)
視覚障がい者ガイドヘルパー	62 人 (62 人)
知的障がい者ガイドヘルパー	42 人 (41 人)
全身性障がい者ガイドヘルパー	78 人 (78 人)

(2) 研修の実施

開催日	内 容	参加者
7/10	廿日市消防署による救命講習	20 人
11/21	介護技術向上研修	41 人
2/24	ヘルパー研修会	21 人

(3) 関係機関との連携

ア 請求事務

行政や他事業所と連携し請求事務を行なった。

イ 担当者会議への出席

担当者会議に出席し、相談支援業務への協力に努めた。

ウ 他事業へのつなぎ

利用者のニーズを把握し、本事業で対応できない支援については、市社協の他事業につなげた。

[平成30年度重点的に取り組む事項]

- ・支援の問題点を抽出し、改善に努める。
→利用者の状況を把握し、より安全に支援の機会が増えるように体制を整えた。
- ・各事務所（廿日市・佐伯・吉和）間で連携し、ニーズにあった支援を行う。
→パソコン内で支援予定を各事務所が共有することで、ヘルパー派遣及び事務処理を円滑に行えるように努めた。

基本目標（５） 多様な主体の強みを生かした 新しい支えあいを育てます

災害時の生活支援をキーワードに、様々な団体との連携強化に努めた。市内での団体に活動助成を行い、つながる中での新たな取組みを創出した。

１ 災害救援事業（共募・市補助 3,316千円）

（１）「廿日市市被災者生活サポートボラネット」推進会議の開催及び運営

開催日	内 容	参加者
5/31	・今年度の取組みについて ・廿日市市被災者生活サポートボラネット推進マニュアル（関係機関協働編）の見直し「時系列で考える構成団体の役割について」	24 人
3/8	・平成30年7月豪雨災害への対応の振り返り ・グループ討議「もし廿日市市が被災地になったら」	16 人

（２）講演会（研修会）の開催

開催日	内 容	参加者
12/7	講演：「平成30年7月豪雨災害からふりかえる“日頃から私たちに出来ること”～それぞれの立場から～」 講師：ローカリズム・ラボ 代表 井岡 仁志 さん 実践報告「災害時にできたこと、これからやりたいこと～被災者支援活動を通して～」 報告者：田中 恵美 さん（坂町災害支援ボランティア活動参加者） 西垣内 範雄 さん（廿日市地区まちづくり協議会） 渡辺 とおる さん（生協ひろしま） 佐川 智弘 さん（廿日市市危機管理課） 増本 菜摘 さん（廿日市市障害福祉課） 森崎 明子 さん（廿日市市人事課）	100 人

（３）平成30年7月豪雨災害への支援活動等

廿日市市（福祉総務課、危機管理課等）と連携し、坂町における復興支援にあたった。

時期	内 容	参加者等
7/6～	1 発災直後 ・社協職員の安否確認 ・社協活動事業利用者等の安否確認 ・市内の被害状況等の確認	市社協職員
7/14～ 8/31	2 ボランティアバスの運行・市と協議し被災地支援のための補助金の交付が決定 ・7月は毎日運行（平日ミニバン×2台＋週末マイクロバス1台追加） ・8月は週末を中心に運行（マイクロバス1台） ・全19日間運行	活動ボランティア数 355人（市民272人、市職員52人、社協職員31人）
7/11～	3 坂町災害たすけあいセンターへの職員派遣	派遣社協職

9/22	・県社協からの要請を受け、職員派遣を決定 ・全 43 日間派遣	員数 延べ 63 人
9/24～ 10/27	4 廿日市市民による坂町災害たすけあいセンターの運営支援 ・全 4 日間活動	活動人数 延べ 12 人

(4) 災害ボランティアミーティング（新規）

これまで、災害ボランティア活動や災害関連研修会等に参加された人を対象に、活動に対する思いや考えを共有し、今後の具体的な取り組みなどについて話し合う場として企画、実施した。

開催日	内 容	参加者
2/19	○平成 30 年度豪雨災害振り返り ○廿日市市における災害支援活動に関する経緯等について ○意見交換 ・被災地支援に関する感想、気づきなど ・廿日市市で災害が起きた時に私たちに出来ること	30 人（一般参加者 24 人、ノートテイク 2 人、社協 4 人）

(5) 広域連携（新規）

ア 平成 30 年 7 月豪雨災害における被災者支援にあたった近隣の 3 市町社協（大竹市社協、安芸太田町社協、北広島町社協）と合同で振り返り会を行なった。今後、近隣市町域で災害が発生した場合の協力関係の構築と、他市町への支援活動時の協働について確認した。

イ 大竹市と合同の広域連携に主眼を置いた勉強会を実施した。

ウ 大竹市社協が実施する災害シミュレーションに企画段階から加わり、当日の運営のサポートを行なった。

[平成 30 年度重点的に取り組む事項] ・小地域での被災者生活サポートボランティアセンター設置訓練を実施する。 →今年度は未実施 ・「廿日市市被災者生活サポートボラネット」の関係団体を増やす。 →廿日市市被災者生活サポートボラネットの構成団体と連携し、平成 30 年 7 月豪雨災害における支援活動を行なった。また平成 26 年豪雨災害での活動者にも呼びかけ、支援者を募った。 →被災地支援にあたっては平成 26 年豪雨災害での活動者にも呼びかけ、多くの活動者が集まった。また、今回の災害で初めて活動に携わった人も多く、復興支援にあたる中で、ボランティア活動に対する意識とともに防災意識も非常に高まった。（アンケート、意見交換の場面から） →被災者支援活動をととして、災害ボランティアミーティングや、個人ボランティアの組織化に取り組むことができた。 →また、近隣市町社協との関係を強化することができ、災害時等の連携体制を具体化することができた。	
---	--

2 福祉人材育成事業（自主・県社協助成 1,246 千円）

(1) キャリアスタート（中学生）の受入れ

地域福祉課で、廿日市中学校 2 年生 2 人の受入れを行なった。

(2) 社会福祉士受験にかかる社会福祉援助技術実習の受入れ

社会福祉士等の国家資格取得に対する実習生の受入れを行なった。

機関等	時間	人数
広島文化学園大学	180	1 人
広島文教女子大学	180	4 人
広島福祉専門学校	180	2 人

(3) 廿日市市地域人材確保体制整備事業

ア 廿日市市福祉・介護人材確保等総合支援協議会の開催（3 回）

【構成団体】老人福祉施設連絡協議会、訪問介護事業所連絡会（障がい部門）、ハローワーク、県担当課、市関連部署、県社協、市社協

開催日	内容及び参加人数等
5/28	平成 30 年度の事業計画具体的内容等の検討及び推進体制について：12 人参加
7/3	推進体制について：15 人参加
10/10	支援体制検討会議の開催：7 施設事業所、10 人参加
12/10	全体会議：構成団体による全体会議。グループごとで課題等について共有、今後の推進体制について確認。20 法人 28 人及び協議会委員を含め、計 42 人が参加。
1/31	進捗状況の確認、平成 30 年度の振り返り、3 月のイベントについて協議：20 人参加（全体会で選出された部門代表者も参加）

イ アンケート実施：11/13～市内 95 の事業所に対して「求人に関するアンケート」実施

ウ 公共職業安定所による勉強会

開催日時：平成 30 年 9 月 5 日（水）18:30～

場所：廿日市市総合健康福祉センター「あいプラザ」3 階講座室

講師：廿日市公共職業安定所 統括職業指導官、統括職業指導員

主な内容：求職者のニーズと求人情報の出し方

実績：10 法人、12 人参加

エ ふくしの魅力を語ろう会

廿日市市と大竹市の福祉現場で働く仲間が集い、福祉のやりがいや魅力について語り合う「福祉の魅力を語ろう会」を開催した。実施にあたっては、協議会構成団体の職員で構成されるプロジェクトチームを組織化し、企画会議を 2 回実施した。市域の課題、日ごろの思い、アイデア等を出し合って企画を組み立てた。（延べ 15 法人、15 人参加）

開催日	3/17	開催場所	あいプラザ多目的ホール
参加事業所	36	面談者延べ人数	91 人

オ 情報発信活動

コミュニティ FM「FM はつかいち」を利用し、関連行事の周知及び福祉現場における取り組みややりがい等について、月 2 回発信した。

カ 福祉施設職員相互研修事業の企画・実施

市内の福祉施設に勤務する職員（延べ 24 人）が、他施設で 1～2 日間を過ごし、情報交換や交流及び研鑽を積んだ。

期間	参加施設：18 施設・事業所
7 月～ 10 月	（廿日市地域）生活介護事業所くさのみ作業所、さくら作業所、デイサービスセンター清鈴園、障がい者支援施設原、広島西こども発達支援センターくれよん、コーヒーショップあんず、リバティはつかいち、デイサービスセンター光の園、児童デイサービスセンターマリオ、 （佐伯地域）友和の里、にじのえき、広島ひかり園、 （大野地域）あいあい作業所、大野ふれあい生活介護事業所、介護付有料老人ホーム望海の里、老人保健施設べにまんさくの里、グループホーム ラ・メール大野

	(宮島地域) 地域密着型老人福祉施設みやしろ
--	------------------------

【主な成果等】

- ・廿日市市福祉・介護人材確保等総合支援協議会の運営を通して、人材確保を考えるうえでの現状、目指すべき方向について多くの議論を交わすことが出来た。またアンケート調査を実施したことで、取り組み状況を一定量把握することが出来た。
- ・これらを通して、参画の主体を大きく広げることが出来たことが、大きな成果となった。
- ・「ふくしの魅力を語ろう会」参加者からは「横の繋がりができた、こういう機会がないと出合えない」との声が多く出され、これも大きな成果であるとする。
- ・今後は各会議、イベントで出されたアイディア、意見とこれまでの参加者を基盤として、取り組みを進めていく。
- ・協議会の機能強化を目的として、分野別部会（高齢者、障害者、子ども）、全体会、社会福祉法人部会があらたに設置された。
- ・社会福祉法人部会においては、人材確保の課題の他、地域公益活動に関する協議を行うことができた。

3 日本赤十字社活動資金募集協力事業 (日赤 1,443 千円)

赤十字事業の趣旨及び必要性の周知を行い、活動資金を募集した。5月を活動資金募集運動月間として、目標額14,231,000円に対し達成率は74.7%（前年度113.4%）となった。

また、火災などの災害に対し救援物資を送付するとともに、国内外で発生した台風・地震・大雨などの大規模災害への義援金・救援金募集及び周知を行なった。

- ・日赤活動資金募集実績 () 内は前年度実績

活動資金実績額
10,633,792 円 (15,786,380 円)

4 共同募金運動協力事業

共同募金が民間福祉活動を支える重要な財源であるという趣旨の周知徹底を図り、赤い羽根共同募金運動、歳末たすけあい運動、地域テーマ募金活動を展開した。

目標額13,856,000円に対し、達成率は100.8%（前年度：100.4%）だった。

- (1) 赤い羽根共同募金運動、歳末たすけあい運動、地域テーマ募金実施（10月～3月）

(単位：円)

	廿日市	佐伯	吉和	大野	宮島
戸別募金	4,021,621	1,081,000	201,606	2,546,050	196,800
街頭募金	30,256	0	0	0	46,023
法人募金	248,086	107,500	119,000	166,000	3,925
学校募金	31,799	8,432	0	10,016	0
職域募金	441,159	0	42,000	133,092	36,437
イベント募金	42,257	24,737	0	0	0
その他募金	346,034	146,805	27,748	16,300	113,392
歳末募金	0	1,071,100	0	2,520,200	196,800
合 計	5,161,212	2,439,574	390,354	5,391,658	593,377

総計 13,976,175 円 (前年度 13,908,392 円)

- (2) 地区別地域福祉推進会議でのPRの実施
 (3) 共同募金委員会運営委員会、審査委員会の開催

5 福祉団体等支援事業 (自主・共募 3,215千円)

福祉団体が実施する福祉事業に対し、活動に対する助成を行うことにより住民福祉活動及び自主運営の促進に努めた。

(1) 福祉団体へ助成金の交付

ア 全域

(単位：円)

廿日市市老人クラブ連合会	100,000	福祉教育活動費助成（市内の各小・中学校対象）	500,000
--------------	---------	------------------------	---------

イ 廿日市地域

(単位：円)

社会福祉法人くさのみ福祉会	50,000	重度障害児者のつどい「ジョイフル」	120,000
虹の会	10,000	廿日市市民生委員児童委員協議会	100,000
ささえ愛ネット廿日市支部	265,000		

ウ 佐伯地域

(単位：円)

機能訓練会「あけぼの会」	30,000	精神障害者家族会「こぶし会」	30,000
ボランティアグループ「ひまわり会」	50,000	在宅障害児音楽療育「パレット」	20,000
在宅介護者の会「リフレッシュクラブ」	20,000	さいき障がい児と親の会「みかん」	20,000
わんぱく旅行実行委員会	170,000	心と心のハーモニーフェスタ実行委員会	943,756
精神障害者サロン「ちゅうりっぷの会」	20,000	コミュニティ活動支援（玖島・友和・津田四和・浅原）	227,000

エ 吉和地域

(単位：円)

ボランティア吉和（ささえ愛ネットはつかいち吉和支部）			5,000
----------------------------	--	--	-------

オ 大野地域

(単位：円)

大野ボランティア連絡協議会（ささえ愛ネットはつかいち大野支部）	154,000	大野障がい者団体連絡協議会	80,000
ビッグフィールド大野隊	30,000		

カ 宮島地域

(単位：円)

宮島町食生活改善推進協議会	20,000	地域ふれあいフェスタ実行委員会	150,223
---------------	--------	-----------------	---------

(2) 各団体との協働事業

開催日	場所	内 容	参加者
3/8	佐伯支所	かけはし事業説明（市社協職員による説明） （人権啓発推進委員 あじさいの会）	15人

(3) 福祉関係団体事務支援事業

福祉関係団体の事務や事業の支援を通して自立運営を支援した。

- ア 吉和地域：老人クラブ・障害者福祉協会
- イ 宮島地域：老人クラブ・障害者福祉協会・宮島町遺族会

【廿日市地域】

基本目標（１） 社会参加や役割発揮のための人づくり参加の入口づくりを進めます

1 ボランティアセンター活動推進事業（自主・市補助・共募 298千円）

福祉活動の担い手であるボランティアの活動が円滑に進められるよう、また、市内の小・中学校等が取り組む福祉教育活動を支援し、子どもたちが地域に目を向け、学校と地域との連携を図り、心の通うまちづくりへの推進に努めた。

- (1) 市内各学校が実施する福祉体験学習への各種支援（相談・ボランティア調整・体験指導・機材貸出等）
- (2) 小中高校・特別支援学校の体験学習（施設見学の際のボランティア説明）の受入れ

開催日	対 象 者	人 数
6/13	廿日市小学校 4年生	114人
7/2	平良小学校 4年生	92人

- (3) ボランティア活動推進

福祉活動の担い手であるボランティアの活動が円滑に進められるよう次の支援を行なった。

ア ボランティア活動推進体制の整備

イ 個人ボランティアに対する積極的な情報と、活動の場の提供

ウ 大学との応援会議の実施・連携強化・入門講座や出張講座の開催

(ア) 応援会議の開催

開催日	内 容
4/16	昨年度の振り返り、今年度の事業予定
5/7	ボランティア講座「ちょっとやってみんさい」について
3/20	学生ボランティア講座の振り返り、次年度の取り組みについて

(イ) 学生のためのボランティア入門講の開催

開催日	内 容	参加者
7/7	ちょっとやってみんさいボランティア体験 → 豪雨により中止	—
12/16	1 子どもたちとクリスマス会をしよう！ 2 高齢者デイサービスのお手伝い！ 小規模多機能センター廿日市 デイサービスセンターゆうゆうあまの 3 子どもたちと触れ合おう！ キッズNPO、 あい保育園 4 見えないってどういうこと？！ 5 赤い羽根共同募金活動をしよう！	23人

(ウ) ボランティア出張講座の開催

開催日	内 容	対象者
1/22	7月の災害時の状況とボランティア活動	サロンえがお（佐方地区）

エ 他事業（遊びの教室、サロン事業）と連携したボランティア育成

(ア) 遊びの教室へのボランティア調整

(イ) サロンへのボランティア調整

オ ささえ愛ネット廿日市の協力を得て、小中学校のボランティア体験学習を実施

開催日	内 容	対 象
6/6	視覚障害体験（椿会、椿会賛助会）	廿日市小学校
6/7	点訳体験（点訳グループあい）	宮島小学校
6/13	手話、点字、車いす体験（阿品台手話、ミツバチ、点訳あい、飛来行）	廿日市小学校
7/12	車いす体験（飛来行）	廿日市中学校
7/26	視覚障害体験（椿会、椿会賛助会）	大野ボランティア学園
10/9	手話体験（レインボー）	平良小学校
10/11	点訳体験（点訳グループあい）	平良小学校
1/17	視覚障害体験（椿会・椿会賛助会）	大野東小学校
1/15	手話体験（レインボー）	宮園小学校

カ ささえ愛ネット廿日市の活動支援

ささえ愛ネット廿日市及び各支部に活動助成金を交付し、活動の促進に寄与した。

キ 地域の福祉まつりへのボランティア参加の支援

ク 使用済み郵便切手収集の実施

使用済み郵便切手を収集し、誕生日ありがとう運動本部へ切手を送付した。また、切手仕分け作業を登録ボランティアへ紹介し、活動へとつないだ。

[平成30年度重点的に取り組む事項]

・既存のボランティア活動者を対象にスキルアップ講座を開催する。

→豪雨災害の復旧活動について幅広く情報発信し、支援を呼びかけた。結果、多くの人が支援に参加した。合わせて関連の研修会を実施し、支援の振り返りと廿日市市域での災害への備えについて意識啓発を行なった。当初の計画とは違う形になったが、災害を切り口としてボランティア意識の高揚と、知識向上に取り組んだ。

2 遊びの教室事業（廿日市 自主・共募154千円）

長期休暇中の在宅障がい児に家庭だけでは体験できない豊かな経験の場、学校の枠を超えた交流の場を提供するとともに、家族の負担軽減を目的として、春休みに1回・夏休みに5回・冬に1回実施した。

多くの民生委員児童委員や学生ボランティアに関わってもらい、継続して参加するボランティアが学生も含めて増えてきた。また毎回楽しみにしている子どもたちが多く、学生ボランティアの活動のきっかけづくりになっている。

開催日	内 容	場 所	参加者 (子ども)	Vo・スタッフ (職員含む)
4/4	宮島水族館へ行こう	宮島水族館	14 人	27 人
7/26	午前：うどんづくり 午後：映画館とお祭りで楽しもう	あいプラザ	13 人	16 人
7/27	午前：うどんづくり 午後：映画館とお祭りで楽しもう	あいプラザ	7 人	11 人
8/2	おやつ作りとこども喫茶	あいプラザ	4 人	17 人

8/3	おやつ作りとこども喫茶	あいプラザ	9 人	15 人
8/10	バスに乗って美川ムーバレーに行こう	美川ムーバレー	16 人	20 人
12/15	午前：クッキング 午後：クリスマス会	あいプラザ	8 人	25 人

[平成30年度重点的に取り組む事項]

- ・ボランティアに対して、個別の障がい特性に応じた支援ができるような説明を活動前に行う。
→活動前に、ボランティアに対して紹介カードを用いながら子どもの特徴について個別に説明を行うようにした。
- ・活動中は、充分楽しめていない参加者やボランティアに対してフォローするなどの配慮をする。
→プログラムに参加できていない子どもに対しては、子どもの意向を確認しながら参加を促し、ボランティアに対しては、参画に加わってもらうことで当日の活動に積極性を持てるよう配慮した。

3 精神保健福祉事業 (廿日市 共募 23 千円)

- (1) 精神保健福祉ボランティアグループ「ねこの手」の活動支援
- (2) はつかいち福祉ねっと精神障がい部会への参加
- (3) 精神保健福祉に関する社会資源一覧の更新
- (4) 精神保健福祉勉強会の開催

開催日	内 容	参加者
9 / 3	「精神障がい者との関わりについて」 講師：コーヒーショップあんず指導員 小川 昌智さん	12 人

4 地域のつどい・サロン支援事業 (自主・共募・県協補助 1,090 千円)

高齢者、障がい者、子育て世代など様々な人を対象としたサロンの活動推進・拡大を目的に事業を展開し、地域の当事者による取組みを支援した。

- (1) 集い（サロン）関係者を対象とした研修会の実施

ア 地域のサロンの自主運営を目指し、継続的に開催されるための支援

取組み	内 容
レクリエーショングッズ貸出し	活動に必要なレクリエーショングッズの貸出し実施 (140 件)
各種助成金案内	・計2件助成（お茶の間づくり事業助成1件、地域のつどいサロン支援助成1件） ・他財団助成金情報の案内
保険案内	ボランティア行事用保険、活動保険の案内
相談対応	各種相談対応 (13 件)
広報活動	・「あいとぴあ（市社協広報紙）」記事掲載 ・各地区民生委員児童委員協議会の定例会等でサロン世話人の

	ためのおしゃべりサロン参加呼びかけ ・市社協ホームページ掲載 ・おしゃべりサロンNEWS発行（5回）
サロン訪問	37ヶ所（計41回）

(2) 情報共有・不安解消のため、地域ごとのサロン交流会の実施

ア サロン世話人のためのおしゃべりサロンの開催

サロン活動の充実と、世話人同士で悩みや喜びを共有することを目的に、サロン世話人を対象とした交流会を実施した。世話人同士の横のつながりができただけでなく、新規立ち上げサロンや新任世話人への情報提供を行なった。

開催日	内 容	参加者
10/30	他市町のサロンの取組みから自分たちのサロンについて考えよう	16人

(3) 小地域のお茶の間づくり事業の推進（県社協委託事業）

県社協が実施するお茶の間サロンの運営支援を行なった。また、指定を終了しているサロンについても、支援を継続した。

(ア) 指定状況

阿品台地区（3年目）

5 あいプラザまつり（廿日市 自主・共募 272千円）

市民みんなのまつりとして、開催準備に関わる市民を増やすなど、参加団体同士が出会い、知り合えるための機会づくりに努めた。また「生涯学習フェスティバル」と同日開催した。

開催日	会場	来場者	ボランティア
11/4	あいプラザ及び新宮中央公園	約6,500人	444人

(1) 社協活動事業の紹介

社協が実施している事業を紹介するとともに、賛助会員の募集を行なった。

(2) ボランティア体験コーナーやパネル展示

ボランティア体験コーナーやパネル展示等でボランティア活動を紹介した。またサロン紹介や、平良小学校児童による無料喫茶コーナーの開設など通じて、世代間交流を深めた。

(3) バザー出店

市内福祉団体がバザー出店することで市民に団体を紹介し、つながりを深めた。作業所メンバーがボランティアコーナー、バザーコーナーで交流することで、「ちょっと知り合う」体験を行なった。

(4) 街頭募金活動

廿日市小学校の児童、廿日市地区共同募金委員会運営委員による赤い羽根共同募金街頭募金活動を実施した。

(5) 参加団体との協議、情報共有の場づくり

参加団体で構成する「3部門企画会議」を開催し、実施内容の充実に向けた協議や情報の共有を行なった。

(6) 合同スタンプラリー

社協と市健康推進課（あいプラザ館内）の合同スタンプラリーを実施した。

基本目標（２） 組織（主体）の意識や活動を進化させます

１ 小地域ネットワーク事業（自主・共募 324 千円）

地域の福祉課題は地域で解決できる体制を確立していくために、様々な地域の取組みのバックアップをした。

(1) 地区福祉部会（地区社会福祉協議会やコミュニティ推進協議会の福祉部会等）への事務局活動費助成

・計 5 件助成

佐方アイラブ自治会、平良地区コミュニティ、四季が丘地区社会福祉協議会、宮園地区社会福祉協議会、廿日市地区まちづくり協議会

(2) 地域住民の福祉に関する意識向上に向けての取組み

地域福祉推進団体の総会、勉強会などで市社協事業等の取組み説明や福祉ニーズの聞き取りなどを行い、各種事業の周知、地域住民の福祉に関する意識向上に努めた。

開催日	開催地区	開催場所	内 容	参加者
12/7	平良地区	平良市民センター	住民が主体的に参加する「見守り・居場所づくり」とは？	29 人

[平成 30 年度年度重点的に取り組む事項]

- ・生活支援体制整備事業と連動し、既存の地域の福祉母体への働きかけを行う。
→原地区で、「見守りネットワーク」の構築に向けた働きかけを継続的行なった。
- ・地域政策課や協働推進課等とも連携しながら、事業を進めていく中核となる人たちへの働きかけを行う。
→市の庁内連携会議の「業務連携会議」に参画し日頃からの連携強化に努めた。また、「地域福祉カルテの作成」プロセスに関わることで、市と連携して地域に働きかけることができた。

基本目標（４） 社会的孤立を見逃さないための仕組みづくりを進めます

１ 不登校・ひきこもり支援事業（廿日市 自主・共募 329 千円）

安心して自由な時間を過ごしてもらい、元気を取り戻してもらうことを目的として、「不登校・ひきこもりの子どもの居場所、ひきこもりの若者のサロン」を、毎週火曜日に開催した。自立への一歩として、月 1 回はクッキングの日とし、簡単にできる調理を行なった。

また、不登校・ひきこもりの子どもや若者の家族が相談できる場である「親の会」も継続的に開催した。

(1) 親の会の開催

1 2 回開催 延べ参加者 70 人（昨年度 119 人）

(2) 居場所の開催

毎週火曜日開催 延べ参加者数 194 人（昨年度 126 人）

延べボランティア参加者 85 人（昨年度 105 人）

(3) 講演会・学習会の開催

開催日	内 容	実施場所	参加者
11/25	一歩踏み出せたけれど、次はどうする？ ～不登校新聞編集長の石井さんの場合～	あいプラザ	58 人

	講師：NPO法人 全国不登校新聞社 編集長 石井 志昂 さん		
--	-----------------------------------	--	--

[平成30年度重点的に取り組む事項] ・廿日市市、大竹市、広島市佐伯区などの沿線での「不登校・引きこもり」に関わる支援組織の連携を図る。 →廿日市市、大竹市、広島市佐伯区の「不登校・ひきこもり」に関わる事業担当者と協議を重ね、社会資源の見える化に取り組んだ。 ・小規模での「不登校・引きこもり講演会」を複数回実施する。 →災害等で、複数回の開催は難しかった。

【佐伯地域】

基本目標（１） 社会参加や役割発揮のための人づくり参加の入口づくりを進めます

1 ボランティアセンター活動推進事業（自主・共募240千円）

- (1) ボランティア調整（派遣）及び活動支援
ボランティアに関する相談に応じ、ボランティアの調整（派遣）と活動支援を行なった。
- (2) れすとはうす「花かご」の管理運営
世代間交流やサロン開催、文化活動、相談活動等、ボランティア活動の拠点施設として、管理運営を行なった。また、年1回、花かごパンフレットを発行した。

【れすとはうす「花かご」利用実績】 () 内は前年度実績

開館日数	内 容	来館者
213 日 (213 日)	・ボランティア活動（おもちゃの会、手話でおしゃべり、おはなし会、あけぼの会、リフレッシュクラブ） ・ふれあいサロン（たまてばこ、ちゅうりっぷの会、おしゃべり広場、れもんの会） ・文化・健康活動（パッチワーク、牛乳パック工作、編み物、楽彩クラブ、リフォーム手芸、健康体操、コミュニケーション麻雀、百歳体操、パソコンで遊ぶ等） ・行事（草抜き＆茶話会、花植え、やさい市、フリーマーケット等）	延べ2,617 人 (2,706 人)

- (3) ささえ愛ネットはつかいち佐伯支部「ひまわり会」の支援

開催日	内 容	参加者
4/7	ボランティア交流会	22 人
2/28	ひまわり会役員会議（役員改選）	4 人

- (4) ボランティア養成講座の実施

ボランティアやサロン世話人、関心のある人を対象にボランティアの理解を深め、今後の活動の幅を広げるための講座を開催した。

開催日	内 容	実施場所	参加者
3/7	ボランティア養成講座 寄り添いボランティア講座「上手な聞き方、関わり方」 講師：大西 恵子（人間関係インストラクター）	津田市民センター	29 人

- (5) ヤングボランティアスクールの実施

年間を通して、ボランティア活動に関心のある中・高・短大・大・専門学生を対象にボランティア活動、交流、体験「チャレンジクラブ」を実施した。

開催日	内 容	参加者
8/7	「さいきせせらぎ園夏まつり①」の手伝い	1 人
8/9	「さいきせせらぎ園夏まつり②」の手伝い	7 人
8/10	「さいきせせらぎ園夏まつり③」の手伝い	4 人
9/29	「みかんデイキャンプ」障がい児の付添・見守り	9 人
10/14	「わんぱく旅行バスハイク」障がい児・者の付添・見守り	1 人
10/28	「心と心のハーモニーフェスタ」の手伝い、ステージ発表	64 人

夏休みに小学生を対象とした手話教室と福祉施設との交流「ふれあい探偵団」を実施した。

開催日	内 容	参加者
8/7	手話教室 講師「手話サークルみなみ」 福祉施設（さいきせせらぎ園）との交流。（手話と歌を披露）	11 人

2 障がい児・者福祉支援事業（自主 63千円）

障がいのある人とその家族への理解を深め、地域で支え合う仕組みづくりを推進した。

(1) 障がい児地域支援システムの構築

関係機関と連携し、未就学から学童期それぞれのライフステージで障がいのある子どもたちに、どのような支援や関わりが必要なのかを協議し、当事者やその家族に対して活動支援を行なった。

開催日	内 容	実施場所	参加者
6/9	講演会 「誰もが暮らしやすい地域社会を目指して」 講師 社会福祉法人ひとは福祉会 理事長 寺尾 文尚さん	佐伯文化ホール	67 人
6/21	就労学習会 「学校卒業後の就労について」 見学先① 株式会社やまだ屋 おおのファクトリー 見学先② 社会福祉法人清風会 就労継続支援 A 型清風会みやじま	廿日市市大野	家 族：7 人 （さいき障がい 児と親の会みか ん） 関係機関：7 人 （ハローワーク、 もみじ、社協）
8/26	発達に不安のある子どもたちの交流 会「作って食べて遊ぼう！」 クッキングとカラーリング大会	津田市民センター	当事者：11 人 家 族：3 人 ボランティア：9 人
1/13	交流会&学習会 ① ボランティアと参加者の交流会 （ペタンク体験、映画、ゲーム） ② 療育相談と学習会 講師：賀茂精神医療センター 療育指導室 元山 淳 さん	津田市民センター	当事者：4 人 家 族：5 人 ボランティア：6 人 その他：3 人
3/21	発達に不安のある子どもたちの社会 見学 「春の宮島であそぼう!! みやじマリン&雛めぐり」	廿日市市宮島	当事者：6 人 家 族：4 人 ボランティア：4 人

(2) わんぱく旅行実行委員会への支援（共募 170千円）

障がい児・者の社会参加の促進、保護者の交流・情報交換の場を目的とした旅行を実施した。

開催日	内 容	実施場所	参加者
8/23	第 1 回実行委員会 （H29 事業報告及び H30 事業計画）	佐伯社会福祉センター	役員等：6 人

10/14	「わんぱく旅行(日帰りバスハイク)」 行き先：山口県ゆめ花博	山口県山口市	当事者：8人 家族：11人 ボランティア：17人
-------	-----------------------------------	--------	--------------------------------

3 精神障がい者福祉支援事業 (自主・共募 26 千円)

(1) 当事者支援の実施

精神保健福祉サロン「ちゅうりっぷの会」活動支援を行なった。また、当事者家族のおしゃべりサロン「こぶし会」定例会に出席して活動支援を行なった。

(2) ボランティア養成

精神保健福祉講座の開催

開催日	内 容	実施場所	参加者
3/19	テーマ：こころの病気に向き合う 講 師：友和病院 地域連携室 精神保健福祉士 武田 亮介 さん	津田市民センター	24 人

4 地域のつどい・サロン支援事業 (市域全体予算として 1,280 千円)【重点】

(1) サロン連絡会議の実施

開催日	内 容	実施場所	参加者
6/13	サロンミニ講座「消費トラブル」 ～詐欺被害に遭わないために～ 講師：廿日市市消費生活センター 溝下 祐子 さん (消費生活相談員)	津田市民センター	15 人
	第 1 回サロン連絡会 情報交換会		13 人
2/21	サロンミニ講座「認知症予防教室」(ヤクルト出前講座) 講師：山口県東部ヤクルト販売 (株) 吉岡 清恵 さん	津田市民センター	12 人
	第 2 回サロン連絡会 情報交換会		9 人

(2) ふれあいサロン助成金交付 6 か所

(3) 出前サロンの実施

開催日	内 容	場 所	参加者
6/28	健康相談、レクリエーション・茶話会	浅原市野集会所	11 人
7/11	健康相談、レクリエーション・茶話会	玖島一丁田集会所	2 人
11/22	ちょっとひと息医療とふくしの相談室と共催	浅原市野集会所	15 人
11/26	健康相談、レクリエーション・茶話会	玖島一丁田集会所	9 人
1/17	健康相談、百歳体操紹介・茶話会	下友田集会所	31 人

(4) ふれあいサロン「オルゴール」浅原・友和・玖島・津田各地域で毎月 1 回開催した。 (各市民センターと共催事業)

開催日	実施回数	実施場所	参加者
毎月第 1 金曜日	12 回	浅原市民センター	延べ 123 人

毎月第2金曜日	12回	友和市民センター	延べ432人
毎月第3水曜日	12回	玖島市民センター	延べ143人
毎月第4金曜日	11回	津田市民センター	延べ203人

※ 津田市民センターでは津田保育園児の参加による世代間交流

- (5) 未就園児を育てる保護者と子どものサロン(赤ちゃんすくすく広場)支援
佐伯・吉和子育てネットワーク会議に参画し、子育て支援活動を行なった。
- (6) 小地域のお茶の間づくり事業の推進
お茶の間サロン「花かご」の運営の支援を行なった。
・世話人会議(毎月1回)に参加
- (7) レクリエーショングッズの貸出し(87件)

[平成30年度重点的に取り組んだ事項] ・各地域のコミュニティと連携し、地域のつどい・サロンの運営支援、新規立ち上げを推進する。また、関係機関と連携し、サロンが開催されていない小集落へ出掛け、出前サロンを開催する。 →地域のつどい・サロンの重要性や地域の見守り、支え合いの大切さ等を改めて考えられるように連絡会議やサロンミニ講座を企画・開催した。 →サロンが開催されていない小集落の民生委員児童委員などの関係者と調整し、浅原市野、玖島一丁田、下友田の小集落で出前サロンを開催した。

基本目標(2) 組織(主体)の意識や活動を進化させます

1 地域福祉活動事業(自主 126千円)

- (1) 福祉委員活動推進事業の実施
福祉課題解決のために、地域住民や福祉関係機関と連携し、地域で支え合う仕組みづくりを推進した。

① 福祉委員会議	福祉活動を実践する助け合いのネットワークの充実を図ることを目的とした福祉委員会議を開催
実 施 者	福祉委員:105人 取りまとめ:39人
内 容	4/24 ①玖島地区(5人) ②友和地区(15人) 4/25 ③浅原地区(5人) ④津田四和地区(14人) ⑤全地区合同(7人) 議題:福祉委員活動及び日赤・社協会費募集について (参加者延べ45人)
	9/25 ①玖島地区 ②友和地区 9/26 ③玖島地区 ④津田四和地区 ⑤全地区合同 議題:日赤活動資金・社協会費募集状況及び共同募金活動について (参加者延べ30人)
② その他の活動	地域のサロン、敬老会、福祉まつりなどの取組みへの協力や民生委員児童委員と連携したニーズ把握

- (2) 福祉施設等連絡会の開催
佐伯地域での施設間の交流・連携を図り、共通の問題を取り上げ、今後の取組みについて検討した。また、佐伯地域ケア会議との連携に努めた。

開催日	内 容	参加団体数
6/1	平成30年度の取組みや現況報告を基に地域課題等について協議した。また、ヤングボランティアスクールの協力や地域福祉カルテの作成、心と心のハーモニーフェスタの参加などの協力を呼びかけ、施設間との連携を図った。	9 団体
11/30	「心と心のハーモニーフェスタ」の反省会	10 団体
※ 佐伯地域ケア会議（毎月第4水曜日）参加		

(3) 広報啓発活動の実施

佐伯地域の福祉情報紙「ひまわり日和」を年6回（No. 114～119）、約18,000部発行した。

(4) 過疎地域における福祉活動とその関わり

関係機関との連携により、出前サロンを実施し、過疎地域における福祉活動の活性化を図った。

出前サロン：年5回開催（6/28・11/22 浅原市野、7/11・11/26 玖島一丁田、1/17 友和下友田）

(5) 各地域のコミュニティ支援

- ・玖島、友和、津田・四和、浅原のコミュニティ活動支援及び助成金を交付
- ・地域のつどい・サロンの情報共有や研修会等通じて、サロンの運営及び活動支援を推進した。

〔平成30年度重点的に取り組む事項〕

- ・佐伯支所をはじめ、民生委員児童委員協議会や地域の福祉施設、各地域のコミュニティなど関係諸機関と連携し、過疎地域における福祉問題やニーズを探りながら、出前サロンなどを開催し、各地域における社会福祉活動事業を推進する。
- 過疎が進みサロンが開催されていない小集落への出前サロンの開催や生活支援体制整備事業での第3層協議体づくりに取り組み、小地域でのささえあいのネットワークづくりの推進を図った。

基本目標（3） 地域の問題解決に必要な情報を共有します

1 地域福祉活動事業（基本目標（2）－1 再掲）

(1) 広報啓発活動

佐伯地域の福祉情報紙「ひまわり日和」を年6回（No. 114～119）、約18,000部発行した。

2 心と心のハーモニーフェスタ（団体助成事業：自主・共募 943千円）

実行委員会形式で実施し、50団体が参加した。

開催日	会場	来場者	ボランティア
10/28	さいき文化センター	約2,000人	200人

- ・ささえ愛ネットはつかいち（廿日市・佐伯・大野支部）の協力により、手話・点訳の体験コーナーを設置した。同時に、ボランティア活動及びサロン活動を紹介した。
- ・佐伯地域の社会福祉施設などが参加し、市民と交流ができた。
- ・佐伯中学校吹奏楽部やソーラン部による協力を得て、ステージ発表を行なった。
- ・佐伯高等学校生徒会による総合司会で、ステージ発表や参加団体のインタビューなどを行い、会場全体を盛り上げることができた。

【吉和地域】

基本目標（１） 社会参加や役割発揮のための人づくり参加の入口づくりを進めます

1 （吉）ボランティアセンター活動推進事業（吉和：市補助・共募 47千円）

災害に備え防災知識を得るため、岩国防災学習館を訪問し学習した。

日時	内 容	協働団体	参加数
10/13	岩国防災学習館	ボランティア吉和	11 人

2 地域のつどい・サロン支援事業（市域全体予算として 1,280 千円）

「すこやかプラザまつり」での活動紹介等のパネル展示や社協だより広報誌「ぬくもり」（吉和地域全戸配布）でサロン参加者の募集、活動報告などの広報活動やレクリエーション用具貸出等、吉和地域のサロンの支援を実施した。

開催日	サロン名	内 容	回数	参加者
毎週金曜日	囲碁のつどい	囲碁	43 回	110 人
隔週月曜日 ただし冬季は 毎週月曜日	カラオケサロン	カラオケ	28 回	226 人
第2水曜日 ただし冬季は 毎週水曜日	よりあいサロン	手芸	14 回	29 人
冬季のみ 毎週水曜日	よしわ ふれあいサロン	閉じこもり防止を目的に したカラーリング等の実施	12 回	196 人
毎週火曜日	いきいきサロン	百歳体操	17 回	276 人

基本目標（３） 地域の問題解決に必要な情報を共有します

1 すこやかプラザまつり（共募 25千円）

「吉和文化祭」と同日開催した。

開催日	会場	来場者	ボランティア
11/10	吉和福祉センター (すこやかプラザ)	約 200 人	4 人 実習生 4 人

- ・支所市民福祉グループ、地域包括支援センター、よしわせせらぎ園、廿日市人権擁護委員、ヘルスメイト、健康はつかいち21、廿日市市消費生活センター、廿日市市吉和公衆衛生推進協議会及びボランティア吉和と協力してスタンプラリー等を実施した。

基本目標（４） 社会的孤立を見逃さないための仕組みづくりを進めます

1 多機能サロン「すこやかサロン」実施事業（共募 300千円）

高齢者サロン、福祉作業所、障がい者デイサービス、子育て中の親子の行き場といった多目的な要素を併せ持ったサロンを運営することで、地域や自宅で孤独感を感じず、また心身ともに健康な生活ができる場づくりを行なった。

開催回数	開催場所	内 容	参加者
月 3 回 (延べ 24 回)	吉和福祉センター他	ラジオ体操/折り紙/血圧測定/食事作り/ 地域行事に参加/DVD 鑑賞/散歩/文化祭作 品準備及び見学/書き初めなどの季節の行 事/スポーツ体験/百歳体操 他	延べ 144 人

2 知的障がい者生活訓練教室開催事業（市委託 271千円）

日常生活上必要な訓練・指導、社会参加の促進や生きがいをづくりを行なった。

開催日	内 容	場 所	参加者
4/7	社会参加 ・ ボランティア吉和とアルミ缶の整理及びレク リエーション	吉和福祉センター	15 人
4/17	社会参加 ・ こいのぼりと花見	吉和福祉センター ほか	8 人
5/15	生活訓練 ・ 食事作り、レクリエーション（スカットボール）	吉和福祉センター	6 人
5/29	社会参加、外出訓練 ・ 美術館見学	吉和福祉センター ウッドワン美術館	7 人
6/19	生活訓練 ・ 食事作り、ラジオ体操、塗り絵	吉和福祉センター	5 人
7/3	生活訓練 ・ 食事作り、七夕飾り	吉和福祉センター	5 人
7/17	社会参加 ・ よしわせせらぎ園デイサービス参加	吉和福祉センター	6 人
9/16	外出訓練、社会参加 ・ スポーツ大会参加	廿日市スポーツセ ンター	17 人
9/18	社会参加 ・ よしわせせらぎ園デイサービス参加	吉和福祉センター	4 人
10/2	生活訓練 ・ 食事作り、ラジオ体操、塗り絵	吉和福祉センター	5 人
10/23	生活訓練 ・ 食事作り、レクリエーション（スロピバー）	吉和福祉センター	9 人
10/30	外出訓練 ・ グラウンドゴルフ、喫茶店でお茶	吉和福祉センター ウッドワン美術館	8 人
11/10	社会参加 ・ すこやかプラザまつり参加	吉和福祉センター	6 人

12/25	生活訓練 ・食事作り、百歳体操、塗り絵	吉和福祉センター	5人
1/15	生活訓練、 ・食事作り、百歳体操、習字教室	吉和福祉センター	7人
2/5	生活訓練 ・食事作り、百歳体操、カレンダー作り	吉和福祉センター	6人
2/19	生活訓練 ・食事作り、百歳体操、塗り絵	吉和福祉センター	5人
3/5	生活訓練 ・食事作り、百歳体操、カレンダー作り	吉和福祉センター	6人
3/19	外出訓練、社会参加 ・魅惑の里で食事、百歳体操	魅惑の里ほか	5人

3 障がい者スポーツ教室開催事業 (市委託 36千円)

障がい者スポーツを通じて障がい者の自立と社会参加を図るとともに、小学生や地域の人と、交流の場づくりに努めた。

開催日	内 容	当事者	小学生	その他
8/6	ディスゲッター・ビームライフル 講師：障がい者スポーツ指導員 渡部 安彦さん	3人	10人	4人

4 障がい者地域社会交流事業 (吉和 共募・市補助 104千円)

障がい者手帳保持者を対象とし、一人では外出することが難しい障がい者に対して外出支援、社会参加目的とした「日帰りバスハイク」を実施した。

開催日	場所	対象者・家族	ボランティア・職員
10/20	広島市 ・NHK見学	9人	4人

5 いきいき活動推進事業 (自主・共募 272千円)

中山間地域・過疎地域に見合った地域課題やニーズから、地域への取組みへと発展させるために市と連携し様々な事業を展開した。

(1) 生涯暮らし続けられる吉和地域を考える福祉座談会等の支援

吉和地域に生涯暮らし続けるために、地域住民を中心に行政、専門職等の協働による地域包括ケアシステムづくりを推進していくため、下記のとおり会議等を行なった。

	開催日	参加者	内 容
1	2/25	15人	・特定非営利活動法人ほっと吉和の経過報告について ・福祉バス運行事業について ・生活支援体制整備事業について ・その他

(2) あつまろう家（ひとり暮らし等高齢者懇談会）実行委員会への助成

ひとり暮らしなどの高齢者の集う場づくりのため、民生委員児童委員・ヘルスメイト・コミュニティよしわ・ボランティア吉和と協働し実施を支援した。

開催日	場所	内 容	参加者
5/10	吉和福祉センター	あつまろう家実行委員会 ・平成30年度の活動計画 ・平成29年度の事業報告・反省事項ほか	4人
6/6	吉和福祉センター	あつまろう家献立会議 ・舞茸の炊き込みご飯・鶏肉の南蛮漬け ・具たくさん中華スープ ・ほうれん草とえのきの和え物 ・梅酒ゼリー	4人
6/23	吉和保健センター	試食会 ・上記メニューの試作	8人
7/18	開催： 吉和福祉センター 調理： 吉和保健センター	あつまろう家開催 ・廿日市警察署巡査部長松原由直さんによる「高齢者の事故」について ・益本住夫さんによる「ほっと吉和」泊りの施設の紹介 ・吉川仁さんによる「メタボとフレイル」について	49人 (対象者30人、協力者19人)
12/12	吉和福祉センター	あつまろう家実行委員会 ・前回の振り返り ・次回の計画について打合せ	6人
1/29	吉和福祉センター	あつまろう家献立会議 ・黒豆のちらし寿司・おかず揚げ出し豆腐 ・ほうれん草と白菜のごま和え ・えのきとわかめのかきたま汁 ・黒豆の抹茶ゼリー	5人
2/22	吉和保健センター	試食会 ・上記メニューの試作	7人
3/22	開催： 吉和福祉センター 調理： 吉和保健センター	あつまろう家開催 ・廿日市市吉和支所による「住民アンケートの報告」について ・妹尾さんご夫妻による「ミニコンサート」 ・吉和駐在所巡査部長松原由直さんによる「防犯」について ・歯科衛生士南島智美さんによる「楽しく食べる力飲み込む力をつけるには」について	60人 (対象者31人、協力者29人)

(3) 子育てサロンの開催

吉和支所市民福祉グループ・市民センターと共催して、知的障がい者生活訓練教室開催事業・すこやかサロンと同時開催した。

開催日	内 容	参加者
8/7	ヨガ教室	7 人
1/15	書初め	7 人

(4) 福祉車両の貸出し

地域の福祉団体等に「たすけあい号」の貸し出し、自主活動を支援した。また、安全に車両を利用してもらうために適切な車両管理を行なった。

貸出実績：54件

(5) 社協だより「ぬくもり」の発行

毎月1日、「ぬくもり」を発行し全戸配布した。これによりボランティア募集、地域活動の予定及び活動報告等の情報を地域に発信した。

(6) 葬儀用具の貸出し

自宅や集会所等の地元で葬祭を執り行う場合に、社協が所有する葬祭用具一式を貸し出した。

貸出実績 6件

[平成30年度重点的に取り組む事項]

・「生涯暮らし続けられる吉和地区をつくる会」を、吉和地域の社会資源として存続させるため「生涯暮らし続けられる吉和地域をつくる会」及び、NPO法人「ほっと吉和」の後方支援（情報収集・情報提供・啓発研修など）を行う。

→会議等の後方支援を行い、吉和地域に新たな社会資源として、自主活動できるようになった。

→社協活動（あつまろう家・サロン）などを利用し、情報提供を行なった。

【大野地域】

基本目標（１） 社会参加や役割発揮のための人づくり、参加の入口づくりを進めます

1 ボランティアセンター活動推進事業（自主 188 千円）＜行動計画10＞

(1) ボランティアセンターの機能強化

ボランティア活動の推進拠点である「ボランティアセンター」の機能強化を図り、ボランティア（個人及びグループ）が活動しやすいよう、相談・需給調整・養成・広報紙（ボランティアニュース）の発行（偶数月）などの基盤整備を行なった。

(2) ボランティア学園の開催

大野地域の小学生を対象に、多くの人との交流や活動を通じ、ボランティアに対する意識と理解を深めるため、次の活動を行なった。

- ア 視覚障がい、聴覚障がいなど障がいの理解、点字や手話、音訳、ガイドヘルプの学習
- イ 福祉施設（アダージョ・洗心園等）で共同作業、入所者との交流促進
- ウ 障がい者団体や家族会、中・高校生と一緒に「小さな夏まつり」のスタッフとしての活動

開催日	内 容	参加者
7/25	入園式 手話体験	7 人
7/26	音訳・点訳・アイマスク体験	7 人
8/6	施設訪問介護体験（Aグループ：洗心園）	7 人
8/7	施設訪問介護体験（Bグループ：アダージョ）	3 人
8/29	「小さな夏まつり」への参画	9 人

(3) ささえ愛ネットはつかいち大野支部「大野ボランティア連絡協議会」の支援

開催日	場所	内 容	参加者
7/13	三次市	「はらみちを」美術館を見学し、ボランティア同士の親睦を図る。	28 人
2/5	大野学校給食センター	大野学校給食センターで食育について学ぶ	42 人

(4) 大野地域の児童・生徒が取り組む地域社会貢献活動に対する活動支援

ア 大野地域の児童・生徒が取り組む地域社会貢献活動に対する助成金の交付や活動支援を行なった。

(ア) 県立宮島工業高校の地域貢献活動支援

(イ) 大野子どもクラブ「ビッグ・フィールド大野隊」の地域貢献活動支援

イ ボランティア学園の開催（再掲）

ウ 大野地域の小学校における福祉ボランティア学習の推進

(ア) 大野西小 6 年生のボランティア学習

開催日	場所	内 容	ボランティア
4/24 5/18 6/28	大野西小学校	手話・点訳・音訳・ガイドヘルプの体験学習	延べ 37 人

(イ) 大野東小 3 年生のボランティア・介護学習

開催日	場所	内 容	ボランティア
8/3 10/11	大野東小学校	ボランティア活動者の想いを聞く 手話・点訳・ガイドヘルプの体験学習	延べ 50 人

10/29	大野福祉保健センター	・車イス…いもせ聚楽会（4人）	
11/6		・ガイドヘルプ…音訳「エコー」（7人）	
12/26		・工作…県介護福祉士会（3人）	
1/16		・健康体操…万年青会女性部（6人）	
1/17		・おやつ…母子保健推進委員（12人）	

[平成30年度重点的に取り組む事項]

・児童、生徒が取り組む地域貢献活動を、地域住民や関係団体と一緒に推進する。
→感染症等による中止のリスクを考慮し、開催時期を変更した。

2 障がい児・者地域生活支援事業（自主・共募 145千円）〈行動計画4〉

障がいのある人の地域参加・交流を促進し、地域で暮らし続けたいと思える地域づくりを進めた。

(1) 障がいのある子どもを育てる家族の「おしゃべり会」の開催

障がいのある子どもを育てる家族が自由に集い、お互いの子育てについての情報交換や交流の場である「おしゃべり会」を年6回程度開催し、学習会を開催した。

開催日	開催場所	内 容	参加者
4/25・5/30 9/12・10/10 11/14・12/12 1/18・3/5	大野支所	障がいのある子どもを育てる家族が自由に集い、お互いの子育てについての情報交換や交流の場を提供。	延べ 50人
1/30	大野支所	「発達の気になるアレコレを聞いてみよう」 講師：廿日市市障がい福祉相談センター きらりあ 相談支援専門員 橘 恵さん	7人

(2) 当事者活動の支援

当事者団体であるハーモニーOB・OGの活動を支援し、ボランティアの調整を行なった。

開催日	実施項目	内 容	ボランティア
5/19・7/14 9/22・12/1 1/26・3/30	職場体験実習	廿日市市高齢者ケアセンターの協力で、一般就労の職場体験を行なった。	延べ 12人
5/18・10/26 3/1	喫茶「ぼっぼ」	高齢者ケアセンター内の喫茶「ぼっぼ」で昼食を提供。	延べ 10人
7/3・12/4 2/5	鍋奉行	高齢者の集い「サロン阿品」での昼食を提供。	延べ 7人
7/28	ボランティア活動	2区ふれあいサロン（さわやか会）でのカレー作り。	3人
9/12・12/12	お化粧品教室	ヤクルト化粧品の協力を得て、阿品清鈴園の入所者へのお化粧品ボランティアをした。	—
6/30	ネイル体験	地域ボランティアとネイル体験を行なった。	1人

(3) 大野障がい者団体連絡協議会の支援

ア 会議への参加

会議に参加し、意見交換、活動の助言、及び情報共有を行なった。

イ 小さな夏まつりの開催協力

小さな夏まつりの開催に当たり、関係各所との調整等、様々な形で協力した。

開催日	場所	参加団体	参加者 (ボランティア)
8/9	大野福祉保健センター	大野障がい者団体連絡協議会・宮島工業高等学校・大野中学校・大野東中学校	約 300 人 (27 人)

ウ 交流会の開催協力

障がい者の交流会の開催にあたり、関係各所との調整等、様々な形で協力した。

(4) 精神保健福祉ボランティアの発掘・育成

ア 本人やその家族の自主活動の支援

毎月実施の「精神障がい者ソーシャルクラブ（プラム）」の取組みに対して、保健師と連携をとりながら協力した。

イ 精神保健福祉ボランティアの育成

精神障がい者等への理解を深めるために、市民を対象としたボランティア講座として、対人援助技術や社会資源を学ぶための施設見学を実施した。

回	開催日	内 容	参加者
1	10/12	友和会「エスペランサ」のグループホームと桜虹会「にじのえき」の作業所を見学し、障がい者の生活と就労の場と地域の関わり方について学ぶ	15 人

(5) ソーシャルクラブ「プラム」への協力

ボランティア活動の場を確保するため、ソーシャルクラブ「プラム」へのボランティア調整を行なった。

回	開催日	内 容	ボランティア
1	4/17	お弁当を作ってピクニック	4 人
2	5/18	外出（宮島）	3 人
3	6/19	お好み焼き作り・七夕飾り	6 人
4	7/17	絵手紙・体操	6 人
5	9/18	防災について・歯科衛生士さんの話	3 人
6	10/12	外出（佐伯地域のエスペランサ・にじのえきの見学）	6 人
7	11/20	クリスマス飾り・調理	4 人
8	12/26	クリスマス会	5 人
9	1/15	調理・ゲーム・次年度計画	4 人
10	2/19	バンド演奏・体操	3 人
11	3/19	調理実習・体操	3 人

(6) 障がい理解講座の開催

障がい理解と、障がい児者の地域生活支援のため、保護者対象の講座を開催した（再掲）。

[平成30年度重点的に取り組む事項]

・障がいへの理解者を地域で増加させる。

→福祉関係団体によるまつりの開催で、地域に障がい者の活動の周知を行なった。

3 地域のつどい・サロン支援事業（自主・共募・その他 510 千円）〈行動計画15〉

(1) 地域のつどい・サロン支援助成

各区で開催される地域のつどい・サロンの活動費を助成し、安定的運営を支援した。

(2) ふれあいサロン活動概況調査

各区で開催される地域のつどい・サロンの概況を把握し、地域住民への情報提供等に役立てた。

(3) 世話人交流会の開催

各区のサロン世話人同士の情報交換や社協からの事業提案などにより、サロン運営の活性を促した。

開催日	場所	内容	参加者
3/18	大野支所	レクリエーション講座・グッズ体験・交流	21 人

(4) レクリエーショングッズの貸出し

各区で開催される地域のつどい・サロンで活用するレクリエーショングッズを貸し出した。

貸出件数	19 件
------	------

[平成30年度重点的に取り組む事項]

- ・各区のサロン活動を他区の活動の参考にしてもらうため、サロンを訪問した時の様子を「サロン訪問記」として発行し、広く広報する。
→「サロン訪問記」を発行、ホームページへ掲載し、広く広報した。
- ・レクリエーショングッズの貸出し促進に努める。
→新規レクリエーショングッズの購入・フリースペースに展示・カタログを作成配布した。また、レクリエーション講座を開催し、サロン世話人へ周知するなどし、利用を促進した。

基本目標（2） 組織（主体）の意識や活動を進化させます

1 ふれあいのまちづくり推進事業【重点】（自主・共募 5,520 千円）〈行動計画5〉

誰もが、住み慣れた地域で暮らし続けていくために、現行で実施されている福祉サービスだけでは解決できない福祉ニーズを解決するための仕組みを地域の福祉を推進していく機関等の連携の中で考えていく他、大野の各区で取り組まれている実践を大野地域に広報した。

(1) 地域福祉推進委員会の開催

大野地域の福祉課題の共有及びその解決策について考えていく地域福祉推進委員会を、年2回開催した。

開催日	会場	内 容	参加者
7/4	大野支所	・大野地域福祉推進委員会役員の選任について ・平成29年度地域福祉推進事業報告 ・平成30年度地域福祉推進事業計画 ・八区ふれあい福祉の会の取組みについて ・大野地域福祉推進研究協議会について	30 人
1/30	大野支所	・平成30年7月豪雨災害のふりかえり ・生活支援体制整備事業の第2層協議体について ・大野地域福祉推進研究協議会について ・市社協からのお知らせ	32 人

(2) 地域福祉推進研究協議会の開催

地域で福祉活動に関わる住民を対象とした研修を年1回開催した。

開催日	会場	内 容	参加者
3/2	大野 福祉保健 センター	基調講演：「地域共生社会」の実現を見据えた 生活支援体制の構築 講師：ローカリズム・ラボ 代表 井岡 仁志さん 実践報告：私の地域の地域支援体制への関わり方 発言者：大野 8 区 横田 光男さん 橋本 孝志さん 竹本 靖子さん 鈴木 昇さん	135 人

(3) 各種地域福祉活動への助成

ア 一般会費地区交付金

各区に一般会費の 7 割を交付し、地域福祉活動の推進に努めた。

イ 地区福祉活動費助成

(ア) 自主活動助成

地域の高齢者や障がい児・者、子どもを対象に行われる大野地域の区の自主活動による支え合い活動に対し、その経費の一部を助成した。

(イ) 福祉部会活動助成

地域の高齢者や障がい児・者、子どもを対象に行われる大野地域の区の福祉部会による支え合い活動に対し、その経費の一部を助成した。

(ウ) サロン開催助成

地域の高齢者や障がい児・者、子どもを対象に行われる大野地域の区のサロン開催に対し、その経費の一部を助成した。さらに県社協の「地域のお茶の間づくり」事業の指定終了地区に対し、指定終了後の 2 か年に限り助成を継続した。

ウ 給食サービス助成

区の福祉部会が地域ボランティアを募り、地区内の一人暮らしの高齢者及び障がい者世帯等に、食事の提供と安否確認を行う事業に対し、活動経費の一部を助成した。

実施地区	回数	人数
第 2 区	10 回	306 人
第 5 区	8 回	135 人

(4) 地区環境美化活動（花いっぱい運動）の推進

各地区の花いっぱい運動を支援し、住民同士及び障がい者施設との交流に努めた。

花苗配布日	品種	数量
5/24	サルビア、マリーゴールド、日々草、ベゴニア	2,550 個
10/25	パンジー、葉牡丹、ノースポール	2,550 個

(5) 大野福祉ふれあいまつり実行委員会の支援

「おおの健康福祉フェスタ」の福祉部門を企画・運営する「大野福祉ふれあいまつり実行委員会」への助成及び運営支援を通じ、住民への福祉啓発を図ったが、台風のためイベントは中止した。

(6) ふれまちだよりの発行

大野地域版の広報紙「ふれまちだより」を偶数月に発行した。

(7) 車いすの貸出し

在宅で緊急的かつ一時的に車いすを必要とする人に、日常生活上の負担の軽減や、社会参加等のための用具として貸出しを行うほか、学校や地域における福祉体験活動等の用具として貸出し、市民の地域福祉に対する関心と理解を深めた。

() 内は前年度実績

件数	59 件 (92 件)
台数	59 台 (109 台)

[平成30年度重点的に取り組む事項]

- ・大野地域福祉推進委員会において生活支援体制整備事業の第2層協議体設置について検討する。
→大野地域福祉推進委員会を生活支援体制整備事業の第2層協議体に位置付けることになった。
- ・地区環境美化活動での花苗の地区別配布数を見直す。
→平成30年度内での整理ができなかったため、平成31年度に引き続き見直しに取り組む。

基本目標 (3) 地域の問題解決に必要な情報を共有します

1 事務局運営事業 (自主 1,049 千円)

大野地域の福祉推進の拠点となる本会大野事務所を運営した。

[平成30年度重点的に取り組む事項]

- ・平成30年秋に予定されている大野支所新庁舎への事務所移転を機に、地域の福祉の窓口としての機能拡充を図る。
→移転後、事務所機能および福祉の窓口としての機能が大幅に改善、拡充された。同じフロアにボランティアルーム、ワークスペース、さらに、市民活動センターとしての研修室が整備されたことにより、ボランティア団体及び活動者、区長等をはじめ多くの地域住民とコミュニケーションがとれるようになった。
また引き続き、支所の各関係課と密な連携が可能で、迅速な相談体制がとれている。

基本目標 (4) 社会的孤立を見逃さないための仕組みづくりを進めます

1 高齢者等移送サービス事業 (共募 584 千円) <行動計画4>

通院や買物などの日常生活の利便向上や社会参加の促進を図るため、交通不便地域を含む大野地域全域を対象として、巡回車両を運行した。

() 内は前年度実績

午前1便	午前2便	午後3便	午後4便
50 人 (30 人)	56 人 (57 人)	53 人 (30 人)	77 人 (114 人)

【宮島地域】

基本目標（１） 社会参加や役割発揮のための人づくり参加の入口づくりを進めます

１ 地域のつどい・サロン支援事業

宮島地域

サロン名	開催日	開催場所
サロンにきんさい	毎月２回 第１・３水曜日	宮島市民センター
すずめ会	毎月１１・２５日	杉之浦市民センター

基本目標（３） 地域の問題解決に必要な情報を共有します

１ 地域ふれあいフェスタ（団体助成：自主・共募 151千円）

福祉関係団体・ボランティアなどと協働し、「手作り感」を意識して開催した。福祉関係団体の活動を展示コーナーで紹介することにより、相互理解を深めた。

開催日	会場	来場者	ボランティア
8/3	宮島福祉センター	約 250 人	107 人

基本目標（４） 社会的孤立を見逃さないための仕組みづくりを進めます

１ 高齢者自立支援事業【重点】（自主・共募 199千円）

主に 70 歳以上のひとり暮らし高齢者や生活に不安を感じる高齢者世帯を対象に、関係機関と協働し、地域見守り活動も兼ねて実施した。

（１）高齢者給食サービス事業の実施

宮島町食生活改善推進協議会と協働し年 6 回、3 つの地域に会場を分けて実施した。

開催日	場所	対象者	参加者
4/17・6/19・7/17 10/16・1/15・2/19	中西集会所 宮島市民センター 宮島福祉センター	主に 70 歳以上の ひとり暮らし高齢者	延べ 152 人

（２）ひとり暮らし高齢者懇談会の開催

山口県東部ヤクルト販売と廿日市警察署から講師を招き、生活に必要な情報の提供を折りこみながら実施した。

開催日	場所	内 容	参加者
5/22	宮島市民センター	「足・腰元気教室」 講師：山口県東部ヤクルト販売（株） 協力：宮島町女性会	12 人
12/18	宮島福祉センター	「救急について」 講師：宮島消防署 協力：宮島地区民生委員児童委員協議会	12 人

(3) あんしんほっとコール事業の実施

ひとり暮らしに不安を抱える４人の高齢者世帯に対して、希望される曜日や時間に電話による定期連絡を行い、安否確認や見守り活動を実施した。

(4) 歳末みまもり事業の実施

ひとり暮らし高齢者、母子家庭世帯などを対象とした１２３世帯に、年末にお赤飯などを手渡しし、声かけを行なった。

[平成３０年度重点的に取り組む事項]

- ・給食サービス、懇談会については、各団体と連携を図り、参加者以外の人たちの情報を収集し、孤立状態の人の発見につなげている。今後も連携を密にし、情報共有していくことで、高齢者が安心できる生活を実現していく。
→協力団体への対象者に関する情報の収集、参加の呼びかけを行い、高齢者が安心できる生活につながった。
- ・あんしんほっとコールについて、利用者の生活状況等の確認を行い、見守り活動を推進していく。また、当事業について、地域情報誌等で説明を行い、周知を図るとともに、利用者の増加につなげる。
→希望された曜日と時間に連絡を行い、安否確認と健康状態の把握を行なった。当事業について、地域の広報誌等により島民に周知し、利用者の増加につなげた。

２ 福祉コミュニティ支援事業（自主・共募 11千円）

福祉コミュニティづくりを目的とした住民参加型の支援事業を実施した。

(1) 紙門松配布事業の実施

従来の門松等の虚礼を廃止し、資源保護などを目的に紙門松を配布した。

配布時期	配布世帯	配布枚数
11/29	851 世帯	1,702 枚

(2) 葬儀用具貸出事業

生活改善による葬儀の簡素化や地域コミュニティづくりのため、貸出事業を継続した。
貸出件数 ０件

～円滑な事業推進体制のために～

「市民生活に即応した社協の仕事をどのように市民に提示できるか」、そうした基本認識の下で、計画目標を持った適正な執行管理を実現し、地域福祉の具現化を図るため、自立した「ありたい廿日市市の地域福祉の姿」の創出を目指した。

1 職員人材育成事業

職員の人材育成として、これからの市社協の方向性を共有するため、常勤職員、嘱託職員及び非常勤職員を対象に「職員全体研修会」を開催した。

また、新規採用職員を対象に、市社協職員として必要な基本的知識を習得させるため、会長、事務局長、総務課及び地域福祉課職員を講師として「新規採用職員研修会」を開催した。

併せて、県社協主催の各種研修や関連団体等が開催するテーマ別の専門研修などに積極的に参加させるなど、市社協を担う人材の育成に重点を置いて実施した。

(1) 職員全体研修会

開催日	テーマ・内容
6/30	・講義「転換期を迎える社協～廿日市市社協の課題と経営戦略の構築～」 講師：蛭江紀雄会長 ・協議「事業仕分け」グループワーク ・講義「サイボウズ office について」講師：大野事務所 藤原副所長 【参加人数：44 人】

(2) 新規採用職員研修会

開催日	テーマ・内容
4/26	・講義「社会福祉の変遷と社会福祉協議会の役割・機能」 講師：蛭江紀雄会長 【対象参加人数：5 人】

(3) その他研修

研修内容	参加人数
福祉職員キャリアアップ研修(初任者コース)	1 人
福祉職員キャリアアップ研修 (チームリーダーコース)	1 人
職場のコミュニケーション研修	1 人
平成 30 年度 キャリア別社協職員研修 (若手職員)	2 人
平成 30 年度 キャリア別社協職員研修 (中堅職員)	1 人
説明・説得能力向上研修	2 人
業務課題の解決と実践研修 (初任者コース)	1 人
業務課題の解決と実践研修 (チームリーダーコース)	1 人
リスクマネジメント研修	3 人
クレーム対応研修	2 人
社会福祉法人 理事・評議員研修	1 人
社会福祉法人 決算研修	1 人
社会福祉法人 会計入門研修	2 人
社会保険・労働保険実務研修	1 人
平成 30 年度 社会福祉協議会・社会福祉施設職員会計実務講座	1 人

2 法人運営

(1) 自主財源の確保

寄付・会費という地域福祉への参加・貢献の動機づくりと、会員に対しての謝意を表するため、市社協の団体会員並びに賛助会員のお名前をあいプラザ正面入り口に掲示するなど、PR活動に取り組んだ。また、イベント時に会員勧誘をするなどその周知に努めた。

＜会員・会費・寄付の状況＞

区分	人数等	金額
一般会員（佐伯、大野）	10,809 件	5,448,350 円
賛助会員	335 人	969,000 円
団体会員	107 団体	609,352 円
寄付金	203 件	4,229,652 円

(2) 役員等の状況及び会議の開催状況

＜役員等の状況＞

理 事	14 人
監 事	3 人
評議員	28 人

（平成 31 年 3 月 31 日現在）

ア 理事会

	開催日	議 題	出席状況
平成 30 年 第 4 回	6/7	(1) 平成 29 年度事業報告及び資金収支決算について (2) 平成 30 年度収支補正予算について (3) 評議員候補者の推薦について (4) 評議員選任委員会の招集について (5) 平成 30 年度第 3 回評議員会の招集について	13 人/14 人 (3 人)
平成 30 年 第 5 回	12/19	(1) 平成 30 年度収支補正予算について (2) 新理事候補者の承認について (3) 評議員候補者の推薦について (4) 評議員選任等委員会の招集について (5) 平成 31 年度第 1 回評議員会の招集について	12 人/14 人 (3 人)
平成 31 年 第 1 回	3/14	(1) 平成 31 年度事業計画及び資金収支予算について (2) 平成 30 年度収支補正予算について (3) 平成 31 年第 2 回評議員会の招集について	13 人/14 人 (3 人)

※出席状況の（ ）内は監事の人数

イ 正副会長会議

	開催日	議 題	出席状況
平成 30 年 第 3 回	6/4	平成 30 年第 4 回理事会の打合せ (理事会運営の情報共有)	2 人
平成 31 年 第 1 回	3/11	平成 31 年第 1 回理事会の打合せ (理事会運営の情報共有)	3 人

ウ 評議員会

	開催日	議 題	出席状況
平成 30 年 第 3 回	6/25	(1) 平成 29 年度事業報告及び資金収支決算について (2) 平成 30 年度収支補正予算について	22 人/28 人 (2 人)
平成 31 年 第 1 回	1/11	(1) 平成 30 年度収支補正予算について (2) 理事の選任について	20 人/28 人 (3 人)
平成 31 年 第 2 回	3/26	(1) 平成 31 年度事業計画及び資金収支予算について (2) 平成 30 年度収支補正予算について	21 人/28 人 (3 人)

※出席状況の（ ）内は監事の人数

エ 監査会

開催日	内 容	出席状況
5/21・5/22	平成 29 年度資金収支決算に対する監査	2 人
5/22	平成 29 年度事業に対する監査	1 人
11/6・11/8	平成 30 年度上半期の事業に対する中間監査	1 人
11/9	平成 30 年度上半期の会計・財産状況に対する中間監査	2 人

オ 評議員選任等委員会

	開催日	議 題	出席状況
平成 30 年 第 2 回	6/11	(1) 評議員の選任について	4 人/4 人
平成 30 年 第 3 回	12/26	(1) 評議員の選任について	4 人/4 人